

青森県原子力発電所の原子力災害時における
避難のあり方検討プロジェクトチーム
－ 中間取りまとめ －

平成 23 年 1 1 月

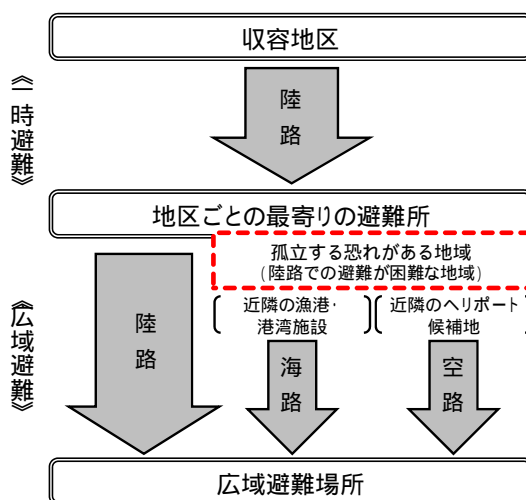
目 次

1. 「青森県原子力発電所の原子力災害時における避難のあり方検討プロジェクトチーム」の設置趣旨	・ ・ ・	1
2. 検討に当たっての前提条件	・ ・ ・	2
3. 下北地域の特徴等	・ ・ ・	3
(1) 各市町村の人口		
(2) 大間町、風間浦村、佐井村		
(3) むつ市、東通村		
(4) 最寄りの避難所と最寄りの避難所までの避難経路等の現状・課題		
4. 原子力災害時における避難経路等	・ ・ ・	12
(1) 原子力発電所の事故による単独災害の場合		
(2) 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故による複合災害の場合		
5. 防災関係機関の輸送能力（空路・海路）	・ ・ ・	14
(1) 基本的な認識		
(2) 輸送能力のイメージ		
6. 福島第一原子力発電所における事故の初期の対応をあてはめた場合	・ ・ ・	15
〔参考〕福島第一原子力発電所における事故の主な初期の対応		
〔参考〕東日本大震災における津波警報等の発表状況		
7. 避難に当たっての基本的な考え方と今後の避難所や避難路の整備等の方向性		
(1) 基本的な考え方	・ ・ ・	17
(2) 今後の避難所や避難路の整備等の方向性		
〔参考〕「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」報告（抜粋）		

1.「青森県原子力発電所の原子力災害時における避難のあり方検討プロジェクトチーム」の設置趣旨について

- 東日本大震災における東京電力(株)福島第一原子力発電所での事故を踏まえ、現在工事停止中の電源開発(株)大間原子力発電所(以下「大間原子力発電所」という。)並びに稼働停止中の東北電力(株)東通原子力発電所及び現在工事停止中の東京電力(株)東通原子力発電所(以下「東通原子力発電所」という。)に関して、原子力災害が万が一発生した場合に備え、地域住民を避難所に一時避難させ、さらに広域避難させる場合における避難のあり方について、下北地域の沿岸部の地形を始めとした地域の特性等を踏まえ、避難経路や避難方法等を中心に検討するもの。
- 検討に当たっては、県や市町村、防災関係機関が連携し、認識や情報を共有できるよう、県、関係市町村、警察本部、消防機関、自衛隊、海上保安部で「青森県原子力発電所の原子力災害時における避難のあり方検討プロジェクトチーム」(以下「本P T」という。)を構成(※)。
- 本P Tでの検討内容や整理した課題等については、県地域防災計画(原子力編)の修正に向けて原子力防災対策上の課題や今後の見直しの方向性等について検討を行う県原子力防災対策検討委員会(以下「検討委員会」という。)での議論に資するよう、検討委員会に報告することを想定。

〔イメージ〕



- ※ 県総務部行政改革・危機管理監が主宰。
 〔県〕 総務部防災消防課、環境生活部原子力安全対策課、農林水産部農村整備課、
 県土整備部整備企画課、道路課、エネルギー総合対策局原子力立地対策課
 〔市町村〕 むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村
 〔警察本部〕 県警察本部警備第二課
 〔消防機関〕 下北地域広域行政事務組合消防本部
 〔自衛隊〕 陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊
 〔海上保安部〕 青森海上保安部、八戸海上保安部

2. 検討に当たっての前提条件

- 福島第一原子力発電所における事故と同様に、大規模な地震・津波発生に伴い、原子力発電所の事故が複合的に発生することを想定するとともに、より厳しい条件として冬期間に発生することも想定。
- 原子力災害と住民避難等については、福島第一原子力発電所における事故の初期の対応を参考にするが、個別具体的な災害・事故想定は行わない。
- 住民の広域避難先については、大間原子力発電所にあつてはむつ市、東通原子力発電所にあつては青森市方面を想定。ただし、事故の規模等によっては広域避難先を変更する必要が生じ得ることに留意する必要。
- 避難は、放射性物質が放出される前に完了させることを目標とする。

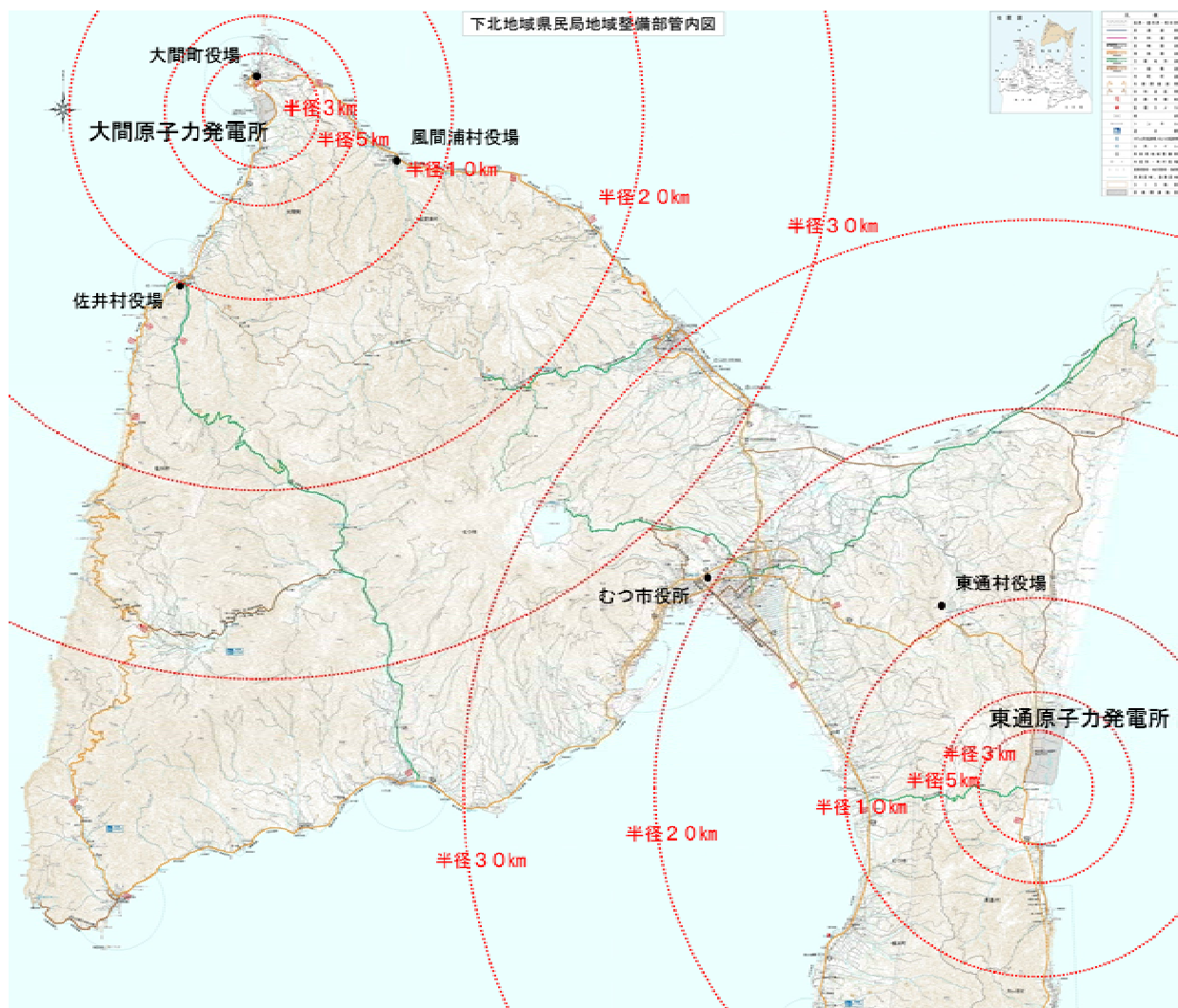
※ なお、ここでは大間原子力発電所と東通原子力発電所での同時災害発生までは検討を加えていないが、同時災害発生の場合には相当程度厳しい対応が求められることに留意する必要。また、津波により陸奥湾（むつ市）において床上浸水する事態は想定していない。

※ 原子力安全委員会原子力施設等防災専門部会防災指針検討ワーキンググループ（第7回会合）（平成23年11月1日）の防WG第7-3-2号「原子力発電所に係る防災対策を重点的に充実すべき地域に関する考え方（案）」では、原子力発電所に係る防災対策を重点的に充実すべき地域について、これまでのいわゆる緊急時計画区域（EPZ：Emergency Planning Zone）に代えて、緊急事態発生 of 初期段階で実施する防護措置の準備のために、本地域内に以下の区域を設けることとされ、同年11月11日に原子力安全委員会原子力施設等防災専門部会においてワーキンググループの検討結果について了承、その後、同月17日に原子力安全委員会に報告され、了承された。

- ・ 予防的防護措置を準備する区域
（PAZ：Precautionary Action Zone）
：「概ね5km」 → 直ちに避難を実施
- ・ 緊急時防護措置を準備する区域
（UPZ：Urgent Protective action Planning Zone）
：「概ね30km」 → 環境モニタリング等の結果を踏まえ、避難、屋内退避等を準備
- ・ プルーム通過時の被ばくを避けるための防護措置を実施する地域
（PPA：Plume Protection Planning Area）
：「概ね50km」 → 具体的な対応を検討する必要

3. 下北地域の特徴等

(1) 各市町村の人口



大間原子力発電所の圏域・市町村ごとの避難対象人口の状況

	避難対象人口					
	大間町	風間浦村	佐井村	むつ市	東通村	小計
3 km圏域	5,316	—	—	—	—	5,316
5 km圏域	965	563	—	—	—	1,528
10 km圏域	—	911	1,705	—	—	2,616
20 km圏域	—	960	514	259	—	1,733
30 km圏域	—	—	253	10,279	—	10,532
計	6,281	2,434	2,472	10,538	—	21,725
市町村人口	6,281	2,434	2,472	63,838	7,297	82,322

東通原子力発電所の圏域・市町村ごとの避難対象人口の状況

	避難対象人口					
	大間町	風間浦村	佐井村	むつ市	東通村	小計
3 km圏域	—	—	—	—	916	916
5 km圏域	—	—	—	—	2,299	2,299
10 km圏域	—	—	—	1,297	432	1,729
20 km圏域	—	—	—	28,031	2,550	30,581
30 km圏域	—	—	—	23,799	1,100	24,899
計	—	—	—	53,127	7,297	60,424
市町村人口	6,281	2,434	2,472	63,838	7,297	82,322

※ 住基台帳人口（H23.3.31）による。

(2) 大間町、風間浦村、佐井村

- 大間原子力発電所から半径10km圏内に位置している北通地区住民の避難ルートとして、幹線道路の国道279号と国道338号があるが、海岸線沿いの低地に位置しているため、地震・津波発生に伴い原子力災害が同時発生した場合は、道路が寸断されたり、交通規制により完全に通行ができなくなるため孤立することになる。
- その場合、現状の迂回道路として、県道薬研佐井線、県道川内佐井線、県道長後川内線、村道薬研易国間線が想定されるが、狭隘箇所や未舗装区間があり、また、県道長後川内線以外については、冬期間は通行止めになる。

(3) むつ市、東通村

- むつ市、東通村を中心とした下北半島住民の避難ルートとして、幹線道路の国道279号と国道338号があるが、ともに東通原子力発電所から半径10km圏内を通過しており、交通規制により通行禁止になることも予想される。
- また、国道279号と国道338号は海岸線に近いので、地震・津波などにより道路が寸断される可能性があり、下北半島北部が陸の孤島となる可能性がある。



(4) 最寄りの避難所と最寄りの避難所までの避難経路等の現状・課題

- 本P Tでは、去る7月28日(木)、29日(金)に大間町、風間浦村及び佐井村の現地調査を、また9月8日(木)、9日(金)にむつ市、東通村の現地調査を実施。
- 現地調査等を踏まえた、関係市町村の最寄りの避難所と最寄りの避難所までの避難経路の状況等の現状・課題の概要については以下のとおり。
- なお、詳細については、別紙「原発避難P Tの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)」を参照。

※ 以下、最寄りの避難所の標高(海拔)について、原子力施設で緊急安全対策を講ずることとした津波の高さ(15m)を一つの目安として検討を加えているが、今回の震災を踏まえ県において新たに津波浸水予測図を作成することとしており、この結果を踏まえ、必要に応じて各市町村において最寄りの避難所の見直しが必要がある。

大間町

ア) 最寄りの避難所

- ・ 地域防災計画に14カ所の屋内避難所（学校、町立公民館等）が指定されているが、標高15メートル未満に位置する避難所が10カ所あり、これらの避難所は巨大な津波が発生した場合、避難所として利用できないおそれがある。
- ・ 標高15メートル以上に位置する避難所を有するのは大間地区のみであり、他の3地区（下手地区、奥戸地区、材木地区）の避難所は標高15メートル未満となっている。
- ・ 避難所の施設構造が木造平屋となっているものが、標高15メートル以上に位置する避難所のうち2カ所ある。
- ・ 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故が複合的に発生した場合、現状の各地区の避難所の収容定員では、避難者を収容しきれないおそれがある。
- ・ 非常用自家発電設備が設置されている避難所は1カ所のみで、ほとんどの避難所では停電時の対応が困難と考えられる。

イ) 最寄りの避難所までの避難経路等

- ・ 人口の最も多い大間地区では、避難所となる大間中学校等への避難経路が複数あることから、比較的避難しやすいと考えられる。
- ・ 一方、下手地区は避難所が1カ所のみで標高が9メートルであることから、巨大な津波が発生した場合には、避難所として利用するのは困難と考えられる。
- ・ また、大間地区に次いで人口の多い奥戸地区も標高15メートル以上に位置する避難所はなく、標高13メートルに位置する奥戸中学校が唯一避難所として利用できる可能性があると考えられる。
- ・ 材木地区も標高15メートル以上に位置する避難所はなく、奥戸地区の奥戸中学校に避難することが考えられる。

ウ) ヘリポート候補地

- ・ 大間地区には、臨時のヘリポートとして活用できる場所が複数ある。
- ・ 下手地区については、大間地区の大間中学校グラウンドを臨時のヘリポートとして活用することが考えられる。
- ・ 奥戸地区についても、奥戸中学校が津波の被害を受けず避難所として利用することができれば、同校のグラウンドを臨時のヘリポートとして利用することが考えられる。
- ・ 材木地区についても同様に、奥戸中学校グラウンドを臨時のヘリポートとして利用することが考えられる。

風間浦村

ア) 最寄りの避難所

- ・ 地域防災計画に11カ所の屋内避難所（学校、村立公民館等）が指定されているが、標高15メートル未満に位置する避難所が4カ所あり、これらの避難所は巨大な津波が発生した場合、避難所として利用できないおそれがある。
- ・ 全ての地区（蛇浦地区、易国間地区、桑畑地区、下風呂地区）において、標高15メートル以上に位置する避難所を有する。
- ・ 避難所の施設構造が木造平屋となっているものが、標高15メートル以上に位置する避難所のうち3カ所ある。
- ・ 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故が複合的に発生した場合、現状の各地区の避難所の収容定員では、避難者を収容しきれないおそれがある。
- ・ 全ての避難所において非常用自家発電設備が設置されておらず、停電時の対応が困難と考えられる。

イ) 最寄りの避難所までの避難経路等

- ・ 国道279号を避難経路とせざるを得ない地区が多い。
- ・ 桑畑地区は、最寄りの避難所までの避難路はあるものの、同地区内には臨時のヘリポートとなり得る場所はなく、最寄りのヘリポート候補地まで移動するには国道279号を通行する以外に方法がないことから、津波警報の発表に伴い国道279号が通行止めになった場合でも移動できる経路や手段の確保が課題である。
- ・ 易国間地区においても、臨時のヘリポートとなり得る風間浦中学校グラウンドと集落が離れており、国道279号を通行しないで移動できる経路や手段の確保が課題である。
- ・ 下風呂地区においても、臨時のヘリポートとなり得る下風呂小学校グラウンドと一部の集落が離れており、国道279号を通行しないで移動できる経路や手段の確保が課題である。

ウ) ヘリポート候補地

- ・ 4地区（蛇浦地区、易国間地区、桑畑地区、下風呂地区）のうち、桑畑地区を除く3地区では臨時のヘリポートとなり得る場所は確保できると考えられる。
- ・ 桑畑地区については臨時のヘリポートとなり得る場所がないことから、上記イ)の対応が必要となる。また、易国間地区と下風呂地区においても上記イ)の対応が必要となる。

佐井村

ア) 最寄りの避難所

- ・ 地域防災計画上14カ所の屋内避難所(学校、村立公民館等)が指定されているが、標高15メートル未満に位置する避難所が7カ所あり、これらの避難所は巨大な津波が発生した場合、避難所として利用できないおそれがある。
- ・ 佐井地区、矢越地区、磯谷地区、福浦地区では標高15メートル以上に位置する避難所を有するが、原田地区、長後地区、牛滝地区の避難所は標高15メートル未満となっている。
- ・ 避難所の施設構造が木造平屋となっているものが、標高15メートル以上に位置する避難所のうち5カ所ある。
- ・ 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故が複合的に発生した場合、現状の各地区の避難所の収容定員では、避難者を収容しきれないおそれがある。
- ・ 非常用自家発電設備が設置されている避難所は1カ所のみで、ほとんどの避難所では停電時の対応が困難と考えられる。

イ) 最寄りの避難所までの避難経路等

- ・ 人口の最も多い佐井地区で臨時のヘリポートとなり得る場所は、佐井中学校グラウンドのみであるが、同中学校と集落の間には河川(古佐井川、大佐井川等)があり、巨大な津波が発生した場合には浸水のため通行できなくなると考えられることから、同中学校まで移動するための経路や手段の確保が課題である。

ウ) ヘリポート候補地

- ・ 佐井中学校グラウンドと佐井漁港を臨時のヘリポートとして活用することとしているが、巨大な津波が発生した場合には佐井漁港は活用できなくなると考えられる。
- ・ なお、旧長後小中学校グラウンドは臨時のヘリポートとして活用できる可能性があると考えられる。

むつ市（太平洋沿岸部）

ア）最寄りの避難所

- ・ 地域防災計画に36カ所の屋内避難所（学校、市立公民館等）が指定されているが、標高15メートル未満に位置する避難所が27カ所あり、これらの避難所は巨大な津波が発生した場合、避難所として利用できないおそれがある。
- ・ 27カ所のほとんどは旧大畑町中心部に位置しており、標高15メートル以上に位置する避難所は田名部高等学校大畑校舎のみである。
- ・ 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故が複合的に発生した場合、現状の各地区の避難所の収容定員では、避難者を収容しきれないおそれがある。
- ・ 全ての避難所において非常用自家発電設備が設置されておらず、停電時の対応が困難と考えられる。

イ）最寄りの避難所までの避難経路等

- ・ 国道279号と同バイパスが整備されている区間は標高の高い場所にあり、また、各地区から国道まで避難する経路は複数確保されている。
- ・ 各地区から最寄りのヘリポート候補地までの避難路も確保されている。

ウ）ヘリポート候補地

- ・ 旧大畑町中心部については、大畑中学校グラウンドを臨時のヘリポートとして活用できると考えられる。
- ・ 旧むつ市関根地区についても、避難所となっている小学校グラウンド等を臨時のヘリポートとして活用することで対応できると考えられる。

東通村

ア) 最寄りの避難所

- ・ 地域防災計画に32カ所の屋内避難所（学校、市立公民館等）が指定されているが、標高15メートル未満に位置する避難所が9カ所あり、これらの避難所は巨大な津波が発生した場合、避難所として利用できないおそれがある。
- ・ 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故が複合的に発生した場合、現状の各地区の避難所の収容定員では、避難者を収容しきれないおそれがある。
- ・ 全ての避難所において非常用自家発電設備が設置されておらず、停電時の対応が困難と考えられる。

イ) 最寄りの避難所までの避難経路等

- ・ 他の4市町村に比べ、比較的内陸部に集落が点在している地区も多く、そのような地区では避難路も複数確保されている。
- ・ また、沿岸部でも最寄りの避難所やヘリポート候補地となるグラウンド等までの避難路は確保されている。
- ・ 特に、東通原子力発電所に最も近い老部地区については、同原子力発電所から半径3km圏内に位置することから、避難方法をどのように確保するかが課題となる。
- ・ 地区によっては、集落自体の標高が低く、避難所や避難経路についても検討が必要である。

ウ) ヘリポート候補地

- ・ 沿岸部を中心に、各地区には臨時のヘリポートとして活用できるグラウンド等が整備されている。
- ・ このような中で、小田野沢地区と老部地区はヘリポート候補地としての標高も低いことから、緊急時の対応については検討が必要である。
- ・ 田代地区については、臨時のヘリポートとして利用できる施設はないが、同地区は内陸部にあるため、陸路による避難が可能であり、万が一の場合には近隣の地区のヘリポート候補地から空路により避難することも可能と考えられる。

4. 原子力災害時における避難経路等

(1) 原子力発電所の事故による単独災害の場合

- 陸路による避難が基本となるが、冬期閉鎖となる場合などに留意する必要。

大間原子力発電所で事故が発生した場合

<大間町>

- ・ 原子力発電所立地地点より東側の住民は国道279号、原子力発電所立地地点より南側の住民は国道338号、県道薬研佐井線、県道川内佐井線によりむつ市方面に避難することが想定される。

<風間浦村>

- ・ 国道279号、村道薬研易国間線によりむつ市方面に避難することが想定される。

<佐井村>

- ・ 国道338号、県道薬研佐井線、県道川内佐井線、県道長後川内線によりむつ市方面に避難することが想定される。

東通原子力発電所で事故が発生した場合

<むつ市>

- ・ 原子力発電所立地地点より南側の住民は国道279号により横浜町、野辺地町方面に、原子力発電所立地地点より北側の住民は国道279号により北通地区（風間浦村、大間町、佐井村）方面、国道338号により西通地区（川内地区、脇野沢地区）方面に避難することが想定される。
- ・ また、国道279号のむつ市以北が通行不能の場合には、国道338号、県道薬研佐井線、県道川内佐井線、県道長後川内線、村道薬研易国間線を活用して北通地区方面に避難することも想定される。

<東通村>

- ・ 原子力発電所立地地点より南側の住民は国道338号により六ヶ所村、三沢市方面に、原子力発電所立地地点より北側の住民は国道338号、県道むつ尻屋崎線、県道むつ東通線、県道尻労裳部線、県道尻労小田野沢線、県道関根蒲野沢線等によりむつ市又は北通地区（風間浦村、大間町、佐井村）方面に避難することが想定される。

(2) 大規模な地震・津波と原子力発電所の事故による複合災害の場合

- 陸路については津波警報の発表等に伴う交通規制により通行止めとなる区間や冬期閉鎖となる路線があるが、大規模な住民避難となることを考えれば、陸路による避難を基本とするのが現実的。
- しかしながら、陸路による避難が困難になる地域については、空路や海路による避難も併せて総合的に避難体制を構築する必要。
- この場合、空路や海路による避難は、気象条件や輸送能力等の面で制約があることに留意する必要。

⇒ 「(1) 原子力発電所の事故による単独災害の場合」に想定される陸路による避難のほかに、以下のような空路や海路による避難が想定される。

大規模な地震・津波と大間原子力発電所の事故が発生した場合

<大間町>

- ・ 近隣のヘリポート候補地からの空路による避難や、海路による避難が可能な場合には大間港、佐井漁港等からの避難が想定される。

<風間浦村>

- ・ 近隣のヘリポート候補地からの空路による避難や、海路による避難が可能な場合には易国間漁港、下風呂漁港等からの避難が想定される。

<佐井村>

- ・ 近隣のヘリポート候補地からの空路による避難や、海路による避難が可能な場合には佐井漁港、福浦漁港、牛滝漁港、脇野沢漁港等からの避難が想定される。

大規模な地震・津波と東通原子力発電所の事故が発生した場合

<むつ市>

- ・ 近隣のヘリポート候補地からの空路による避難や、海路による避難が可能な場合には大湊港、関根浜港、脇野沢漁港、川内港、大間港等からの避難が想定される。

<東通村>

- ・ 近隣のヘリポート候補地からの空路による避難や、海路による避難が可能な場合には尻屋岬港、関根浜港、大湊港、大間港、佐井漁港等からの避難が想定される。

5. 防災関係機関の輸送能力（空路・海路）

（１）基本的な認識

- 防災関係機関が保有するヘリコプターや船舶を活用した空路や海路による避難については、気象条件や輸送能力等の面で制約があり、また、船舶等の活動数も災害時の状況により大きく変動することから、平時において確定的に輸送能力を数値化することには限界がある。
- しかしながら、万が一に備え、平時から認識を共有し連携していくことは重要。

（２）輸送能力のイメージ

- （１）を前提として、輸送能力のイメージを掴むために仮定を置いて機械的に計算した場合、以下のとおり。

航空自衛隊三沢基地 CH-47J

- ・ 輸送能力（１機当たりの可能搭乗者数）： 30人（※）
- ・ 保有数： 2～3機
- ・ 大間・むつ間： 10分

〔仮定計算〕大間・むつ間を1日9時間（40分1往復）、3機が輸送活動を行うとした場合： 1日当たり 1,080人

（※）最大55人だが手荷物等を持参すると仮定し、30人と設定。

海上自衛隊大湊地方隊 護衛艦（DD又はDE）

- ・ 輸送能力（１艦当たりの可能乗艦者数）： 400～600人
- ・ 保有数： 状況により増減
- ・ 大間・むつ間： 3時間30分

〔仮定計算〕大間・むつ間を1日2往復、3隻で輸送活動を行うとした場合： 1日当たり 2,400～3,600人

〔参考〕 原子力発電所に係る関係市町村による知事要望書（H23.10.18）（抜粋）

1 社会基盤の整備促進

（１） 避難道路、避難経路の早期整備について

輸送船舶の確保

海路による避難については、大型船の活用が必要不可欠であるため、自衛隊や海上保安庁等との事前の協議を行い、十分な輸送船舶を確保すること。

輸送ヘリコプターの確保

空路による避難については、ヘリコプターの活用が必要不可欠であるため、自衛隊や海上保安庁等との事前の協議を行い、輸送ヘリコプターを確保すること。

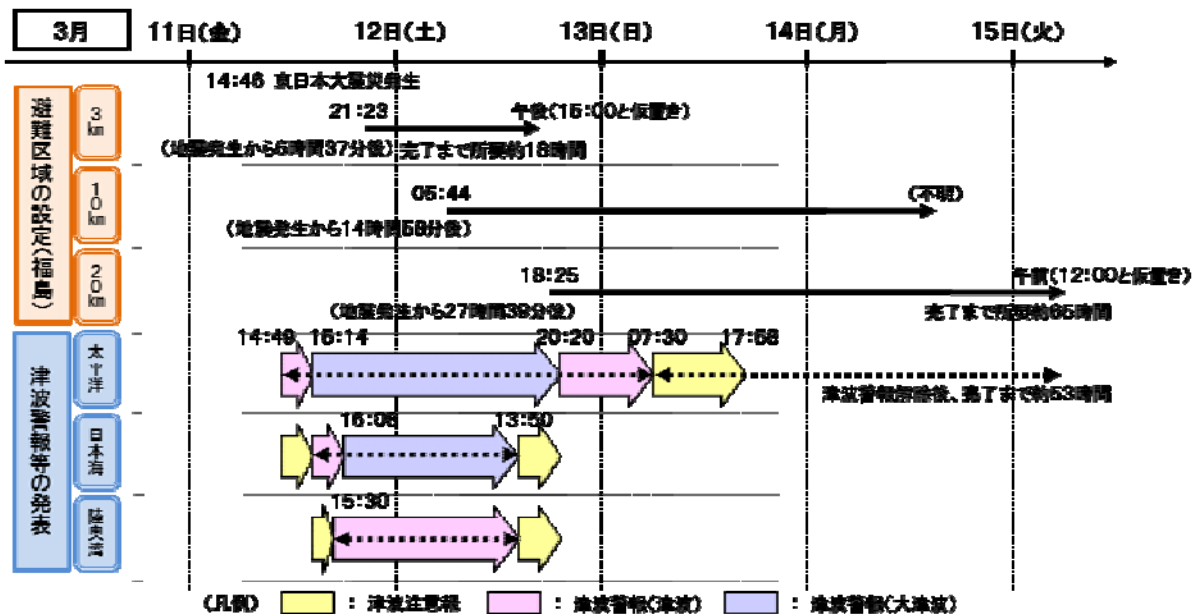
6. 福島第一原子力発電所における事故の初期の対応をあてはめた場合

- 事故の初期の時系列的な対応のイメージを掴むため、福島第一原子力発電所における事故の初期の対応を、東日本大震災での津波警報等の発表状況と重ね合わせ、大間原子力発電所及び東通原子力発電所の場合にあてはめると以下のとおり。

※ なお、福島第一原子力発電所における事故の初期の対応の是非については、あくまで別問題。

※ 県管理道路については、津波警報発表時から概ね速やかに県又は警察による交通規制のため通行止めとなり、津波警報解除後に交通規制も順次解除。

※ 海上保安部では、港則法に基づき津波注意報発表時は第一体制（避難準備の勧告）、津波警報発表時は第二体制（避難勧告）としている。



(1) 半径3 km圏内を避難区域に設定

- 避難区域設定から約18時間後までに避難をほぼ完了させるのは、陸路による避難の主要経路となる国道279号、国道338号が津波警報の発表に伴う交通規制中のため、特に大間原子力発電所の場合については、陸路による避難だけでは難しいと考えられる。

(2) 半径20 km圏内を避難区域に設定

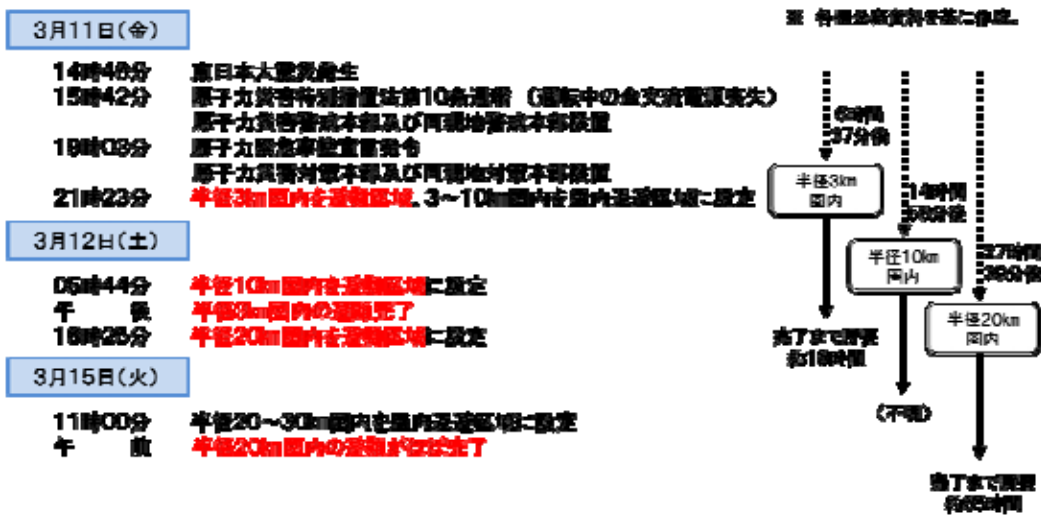
- 避難区域設定から約65時間後までに避難をほぼ完了させるのは、津波警報の解除により交通規制が解除された後、避難のための時間として約53時間あるこ

とから、陸路による避難が可能な場合、半径 3 km 圏内の避難と比べ時間的な余裕はあると考えられる。

- なお、下北地域では主要避難路が海岸線沿いにあり、津波による被害が大きい場合には、交通規制解除に、より多くの時間を要することになると考えられる。

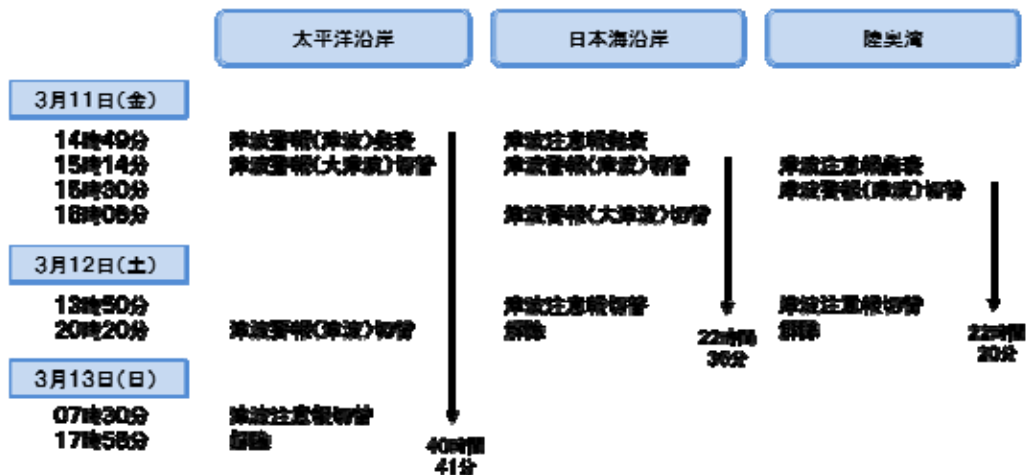
〔参考〕 福島第一原子力発電所における事故の主な初期の対応

- 地震発生から 6 時間 37 分後に半径 3 km 圏内を、14 時間 58 分後に半径 10 km 圏内を、27 時間 39 分後に半径 20 km 圏内を避難区域に設定。
- 半径 3 km 圏内の住民は避難区域設定から約 18 時間後、半径 20 km 圏内の住民は避難区域設定から約 65 時間後に避難がほぼ完了。



〔参考〕 東日本大震災における津波警報等の発表状況

- 津波警報 (津波又は大津波) は、太平洋沿岸では 40 時間 41 分、日本海沿岸では 22 時間 36 分、陸奥湾では 22 時間 20 分継続して発表。



7. 避難に当たっての基本的な考え方と今後の避難所や避難路の整備等の方向性

(1) 基本的な考え方

- 原子力発電所の事故による単独災害の場合であっても、また、大規模な地震・津波と原子力発電所の事故による複合災害の場合であっても、大規模な住民避難となることを考えれば、陸路による避難が基本。
- ただし、陸路については津波警報の発表等に伴う交通規制により通行止めとなる区間や冬期閉鎖となる路線があるため、陸路による避難が困難になる地域については、空路や海路による避難も併せて総合的に避難体制を構築する必要。
- この場合、空路や海路による避難は、気象条件や輸送能力等の面で制約があることに留意する必要。

(2) 今後の避難所や避難路の整備等の方向性

最寄りの避難所への一時避難

(最寄りの避難所の位置等)

- 地理的条件や津波到達時間などを考慮しつつ、最寄りの避難所まで徒歩で概ね30分以内に避難可能かどうかを一つの目安とし、30分以上要する住宅がある場合は、別途、新たな避難所を指定するなどの措置を講じる。
- 最寄りの避難所の標高(海拔)について、原子力施設で緊急安全対策を講ずることとした津波の高さ(15m)を一つの目安として検討を加えたが、今回の震災を踏まえ県において新たに作成することとしている津波浸水予測図や、沿岸部の地形など地域の特性を勘案した上で、別途、新たな避難所を指定するなどの措置を講じる。
- 原子力災害を考えた場合、最寄りの避難所が屋外の公園等となっているものについては、別途、新たな避難所を指定するなどの措置を講じる。
- 最寄りの避難所が対象地区の避難対象者を収容できないものとなっている場合については、別途、新たな避難所を指定するなどの措置を講じる。
- 最寄りの避難所での滞在時間等を考慮した上での食料、飲料水、燃料等の物資の備蓄を行うとともに、外部との連絡手段としての無線通信設備や衛星携帯電話、非常用発電機等を設置する。

※ 市町村では、今回の震災を踏まえ、すでに、避難所に非常用発電機や投光機、反射式ストーブ設備等を今年度中に設置し、冬期間や停電時でも対応できるよう避難所の防災機能強化に取り組んでいるところがある。

（最寄りの避難所までの避難経路の確保）

- 複数の避難経路をあらかじめ整理し、住民に対する周知を徹底する。
- 津波警報の発表等に伴う交通規制により通行止めとなる場合や冬期閉鎖される場合、崖崩れの危険性等を考慮した上で、新たに避難路や避難階段など、短期間（５年程度）で整備が可能で必要な箇所を具体的に整理して県や市町村など関係機関の間で現状認識を共有し、役割分担を設定して計画的に整備を進める。また、事業者とも連携、協力して取組を進める。

〔避難路や避難階段などの例〕

<風間浦村>

- 最寄りの避難所：下風呂小学校
 - ・ 下風呂東弁天地域のふるさと農道へ連結する里道の改良整備
 - ・ 下風呂西弁天地域のふるさと農道へ連結する治山階段の改良整備
 - ・ 下風呂西弁天地域のふるさと農道へ連結する里道の改良整備
 - ・ 下風呂東畑尻地域 of ふるさと農道へ連結する治山階段の改良整備
 - ・ 下風呂西畑尻地域 of ふるさと農道へ連結する治山階段の改良整備
 - ・ 下風呂滝ノ上地域に通じ、ふるさと農道へ連結する階段の改良整備
 - ・ 下風呂地域（本町、立石、日和崎、大川尻）における高台に通じる避難路の新設整備と避難所に通じる避難経路の確保
- 最寄りの避難所：桑畑温泉ゆんゆん
 - ・ 桑畑菅ノ尻地域における高台に通じる避難路の新設整備と避難所に通じる避難経路の確保
- 最寄りの避難所：風間浦中学校
 - ・ 易国間新町における高台に通じる避難路の新設整備、治山階段の改良整備と避難所に通じる避難経路の確保

<東通村>

- 古野牛川地区
 - ・ 野牛漁港から高台へ避難する際の混雑解消のための避難路整備
- 小田野沢地区
 - ・ 標高の高い場所へ避難する際の混雑解消のための避難路整備

最寄りの避難所からの広域避難

(避難経路の確保)

- 津波警報の発表等に伴う交通規制により通行止めとなる場合や冬期閉鎖される場合、崖崩れの危険性等を考慮した上で、新たに集落間を連絡するような効果的な避難路など、短期間（５年程度）で整備が可能で必要な箇所を具体的に整理して県や市町村など関係機関の間で現状認識を共有し、役割分担を設定して計画的に整備を進める。また、事業者とも連携、協力して取組を進める。

〔集落間を連絡するような避難路の例〕

今後、具体的に検討を進める。

- 新たな避難路となる幹線道路の整備については、下北半島地域全体での迅速な避難のため、例えば以下の点を踏まえつつ、規模等に応じ、短期（5年程度）、中期（5～10年程度）、長期（10年以上）の課題として具体的に整理して県や市町村など関係機関の間で現状認識を共有し、役割分担を設定して計画的に進める。また、事業者とも連携、協力して取組を進める。
 - ・ 冬期間においても通行可能な避難路となるか。
 - ・ 原子力発電所から半径20km圏外、さらには半径30km圏外への避難路となるか。
 - ・ 短期間で整備可能で、即効的効果が現れる箇所か。

〔参考〕 原子力発電所に係る関係市町村による知事要望書（H23.10.18）

1 社会基盤の整備促進

（1）避難道路、避難経路の早期整備

下北半島縦貫道路の整備促進

東通原子力発電所及び大間原子力発電所の事故による緊急避難時の幹線道路の渋滞緩和と複数の避難道路を確保するため、大間町までの延伸を含めた下北半島縦貫道路の早期全線整備を促進すること。

国道の改良整備

急勾配や急カーブ、狭隘箇所の解消など幹線避難道路として国道279号及び国道338号の改良整備を要望する。特に、国道338号東通村白糠・六ヶ所村泊間の白糠バイパスの早期整備、六ヶ所村高瀬川橋梁の改良及び国道338号むつ地区・脇野沢地区間の狭隘箇所の改良整備を促進すること。

県道の整備

幹線国道が通行止めになった場合の迂回路として、あるいは集落を連絡する道路として、県道であるむつ薬研・佐井線、川内・佐井線、むつ・尻屋崎線、むつ・東通線、尻労・小田野沢線、関根・蒲野沢線、泊・陸奥横浜停車場線等の改良及び冬期間閉鎖区間においては通年通行を可能とし、また、村道薬研・易国間線の県道昇格による整備を促進すること。

（避難方法）

- 陸路による大規模な広域避難を考えた場合、輸送手段は公共交通機関等のバスになると考えられるが、一方で、避難が長期化する可能性があることも踏まえれば、交通渋滞の発生が懸念されるものの、自家用車による避難を原則とするべきか、地域の実情を踏まえ、一定のルール化を行う。
- 特に、陸路での避難が困難になる可能性の高い地域や、原子力発電所から半径3km圏内の住民の避難については、陸路だけでなく、空路や海路を全て活用した迅速なものとなるよう、自衛隊や海上保安部などの防災関係機関の協力を得て重点的に行う。

〔参考〕 「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」
報告（H23.9.28）（抜粋）

6 津波被害を軽減するための対策について

（２） 円滑な避難行動のための体制整備とルールづくり

避難場所・避難路等の適切な選定

- 海岸地形や湾の形状によって、想定される津波高、浸水深が大きく異なるため、これらを適切に考慮し、地域の実情を踏まえつつ、できるだけ短時間で、津波到達時間が短い地域では概ね5分程度で避難が可能となるよう、避難場所・津波避難ビル等や避難路・避難階段を整備すべきである。ただし、地理的条件や土地利用の実態など地域の状況により、このような対応が困難な地域については、津波到達時間などを考慮して津波から避難する方策を十分に検討することが必要である。
- 避難場所については、できるだけ津波による浸水リスクがない場所に整備する必要がある、避難後においても孤立せず、津波の襲来状況によってはさらなる避難が可能となるよう選定することが望ましい。一方で、適切な避難場所がなく津波避難ビル等の建築物を避難場所を選定せざるを得ない場合には、最大クラスの津波の襲来を予測した上で、避難場所で被災することのないよう十分な高さを有する建築物を選定する必要がある。

（４） 津波に対する防災意識の向上

徒歩避難原則の徹底等と避難意識の啓発

- 地震・津波発生時には、地震の揺れやそれに伴う液状化などにより家屋の倒壊、落下物、道路の損傷や段差が発生したり、渋滞・交通事故が発生するなど多くの課題があることから、津波からの避難については、これまで徒歩による避難を原則としてきたところであり、今後ともその原則を維持することが適切である。
- 一方で、今回の東日本大震災において、自動車避難し生存した者も多く存在したという状況を勘案すると、地震・津波発生時には徒歩による避難を原則としつつも、各地域において、津波到達時間、避難場所までの距離や災害時要援護者の存在、避難路の状況等を踏まえて、やむを得ず自動車により避難せざるを得ない場合において、避難者が自動車で安全かつ確実に避難できる方策について、今後十分に検討する必要がある。

大間町現地調査項目



原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

町村名 大間町

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時		
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間	
1	大間地区	屋内施設	設定なし	大間小学校	大間字狼丁37-2	740	鉄筋コンクリート2階 1,222㎡	13m	×	○	○	町道	乗用車、徒歩	15分	大間中学校グラウンド 大間字大間平37-2	約500m	100m×150m	堅固(グラウンド)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	ヘリポートは近くに、青森県立大間高校グラウンド及び北通り文化センターウイング駐車場があり	7月29日 8:30~9:00
2	"	設定なし	大間中学校	大間字大間平31-1	854	鉄筋コンクリート3階 1,463㎡	36m	×	○	○	町道	乗用車、徒歩	15分	大間中学校グラウンド 大間字大間平37-2	施設に隣接	100m×150m	堅固(グラウンド)	下手浜漁港(県管理) 水深3m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	ヘリポートは近くに、青森県立大間高校グラウンド及び北通り文化センターウイング駐車場があり	7月29日 9:05~9:30	
3	"	設定なし	大間幼稚園	大間字大間平20-38	107	木造平屋 178㎡	36m	×	○	×	町道	乗用車、徒歩	10分	大間中学校グラウンド 大間字大間平37-2	町道を挟み隣接	100m×150m	堅固(グラウンド)	下手浜漁港(県管理) 水深3m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	ヘリポートは近くに、青森県立大間高校グラウンド及び北通り文化センターウイング駐車場があり		
4	"	設定なし	うみの子保育園	大間字大間平20-43	674	木造平屋 1,214㎡	36m	×	○	○	町道	乗用車、徒歩	10分	大間中学校グラウンド 大間字大間平37-2	町道を挟み隣接	100m×150m	堅固(グラウンド)	下手浜漁港(県管理) 水深3m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	ヘリポートは近くに、青森県立大間高校グラウンド及び北通り文化センターウイング駐車場があり		
5	"	1,000	大間公民館	大間字大間91	429	木造2階 709㎡	2m	×	○	×	町道	乗用車、徒歩	10分	大間町総合開発センター広場 大間字奥戸下道28-1	約500m	100m×100m	転圧一部あり(庁舎予定地)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	標高が低いいため、地震・津波高潮時は避難場所としては問題あり。		

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
6	"	1,500	大間町海峽保養センター	大間字内山48-1	1,600	鉄筋コンクリート平屋 2,644㎡	35m	○	○	○	国道279号・町道・農道	乗用車、徒歩	15分	北通り文化センターウィング駐車場 大間字内山48-164	約700m	100m×100m	簡易舗装(駐車場)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 10:05~10:20
7	"	1,300	大間町総合開発センター広場	大間字奥戸下道28-1	860	鉄骨一部2階 1,419㎡	10m	×	○	○	国道279号・町道	乗用車、徒歩	15分	大間町総合開発センター広場 大間字奥戸下道28-1	国道を挟み隣接	100m×100m	転圧一部あり(庁舎予定地)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 10:25~10:35
8	"	1,000	大間町漁業活性化センター	大間字割石埋立地	200	木造平屋建1階 300㎡	1m	×	○	○	町道	乗用車、徒歩	15分	大間町総合開発センター広場 大間字奥戸下道28-1	約800m	100m×100m	転圧一部あり(庁舎予定地)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	大間港湾施設内に立地していることから、地震・津波高潮時には施設は使用不可	
9	下手地区屋内施設	1,200	大間町勤労青少年ホーム	大間字大間平41-7	452	鉄骨2階 747㎡	9m	×	○	○	町道	乗用車、徒歩	15分	大間中学校グラウンド 大間字大間平37-2	約500m	100m×150m	堅固(グラウンド)	大間港(県管理) 水深5.5m	なし	大間地区内へ迂回路(町道・農道)あり	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 9:45~9:55
10	奥戸地区屋内施設	設定なし	奥戸小学校	奥戸字館の上96	500	鉄筋コンクリート3階 1,463㎡	10m	×	○	○	国道338号・町道	乗用車、徒歩	15分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約100m	100m×150m	堅固(グラウンド)	奥戸漁港(県管理) 水深4m	国道338号上仏町地区急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 10:50~11:05

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
11	"	設定なし	奥戸中学校	奥戸字館の上96-7	581	鉄筋コンクリート3階 829㎡	13m	×	○	○	国道338号・町道	乗用車、徒歩	15分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	施設に隣接	100m×150m	堅固(グラウンド)	奥戸漁港(県管理) 水深4m	なし	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 11:05～11:20
12	"	800	大間公民館奥戸分館	奥戸字大川目136	123	木造平屋建1階 204㎡	1m	×	○	×	国道338号・町道	乗用車、徒歩	15分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約1km	100m×150m	堅固(グラウンド)	奥戸漁港(県管理) 水深4m	春日神社裏急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	奥戸川に隣接していることから、津波・高潮・大雨時には施設は使用不可	
13	"	738	大間町農業研修センター	奥戸字館の上10-3	276	木造平屋建1階 457㎡	10m	×	○	○	国道338号・町道	乗用車、徒歩	15分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約300m	100m×150m	堅固(グラウンド)	奥戸漁港(県管理) 水深4m	なし	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	今年度町道を狭み新施設を建築し、既存施設のセンターは解体予定	
14	奥戸地区屋外避難場所	設定なし	奥戸向町避難公園	奥戸字二ツ石179-25他	設定なし	公衆トイレ 51㎡	24m	×	×	×	国道338号・町道	乗用車、徒歩	15分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約3km	100m×150m	堅固(グラウンド)	小奥戸漁港(県管理) 水深3m	避難所付近急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	避難場所へのアクセス道路が未舗装の上、幅員が狭く、十分な駐車場もない。また、国道が通行止めになると、う回路がないので、他の場所への移動が不可能。屋内避難施設なし。(トイレのみ)	
15	"	設定なし	奥戸地域避難公園	奥戸字焼畑49番地外	設定なし	公衆トイレ 15㎡	14m	×	×	×	町道	乗用車、徒歩	10分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約1km	100m×150m	堅固(グラウンド)	奥戸漁港(県管理) 水深4m	春日神社裏急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	避難場所へのアクセス道路の幅員が非常に狭く、大型車両の進入が不可能。車での避難者が集中すれば問題あり。屋内避難施設なし。(トイレのみ)	

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
16	材木地区	264	農村婦人の家	奥戸字材木川目32-2	196	木造平屋建1階325㎡	海拔不明	×	○	○	国道338号・町道	乗用車、徒歩	10分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約4km	100m×150m	堅固(グラウンド)	材木漁港(町管理)水深3m	津鼻崎公園急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内		7月29日 11:25～11:30
17	材木地区屋外避難場所	設定なし	材木避難公園	奥戸字ハツ森4-1	設定なし	公衆トイレ51㎡	海拔不明	×	×	×	国道338号・町道	乗用車、徒歩	10分	奥戸中学校グラウンド 奥戸字館の上96	約4.5km	100m×150m	堅固(グラウンド)	材木漁港(町管理)水深3m	津鼻崎公園急傾斜災害危険箇所あり	国道338号通行止めの場合孤立集落となる	国道279号線並びに338号線に交通規制がかかると避難できず。	バス・車	30分以内	屋内避難施設なし。(トイレのみ)	7月29日 11:30～11:40

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

風間浦村現地調査項目

下北地域県民局地域整



原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

町村名 風間浦村

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所からの移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				避難経路	方法	所要時間		
1	蛇浦地区	585人(要援護者28人)	蛇浦公民館	大字蛇浦字蛇浦17-1	110人	木造二階建395㎡	5m	無	有	有	国道279号→村道蛇浦公民館線→蛇浦公民館	徒歩、乗用車(村道蛇浦は大型車通行不可)	5分	蛇浦小学校グラウンド	1.2km(徒歩15分)	50×80	堅固(校庭)	蛇浦漁港(村管理)水深3m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	蛇浦公民館～国道279号～むつ市	陸路	55分		7月29日 ①13:25～13:55
																					蛇浦公民館～国道279号～蛇浦小グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		
																					蛇浦公民館～国道279号～蛇浦漁港	陸路+海路	不明		
2	蛇浦地区	585人(要援護者28人)	蛇浦小学校	大字蛇浦字古釜谷平126	110人(体育館)	木造平屋367㎡	24m	無	有	有	国道279号→村道蛇浦小学校線→蛇浦小学校ふるさと農道→蛇浦小学校	徒歩、乗用車(村道蛇浦は大型車通行不可)	5分	蛇浦小学校グラウンド	0m(徒歩0分)	50×80	堅固(校庭)	蛇浦漁港(村管理)水深3m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	蛇浦小学校～国道279号～むつ市	陸路	50分		
																					蛇浦小学校～蛇浦小グラウンド～むつ市	空路	不明		
																					蛇浦小学校～国道279号～蛇浦漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
3	易国間地区	880人(要援護者51人)	中央公民館	大字易国間字大川目28-5	240人	鉄骨二階建804㎡	3m	無	有	有	国道279号→村道大川目線→中央公民館	徒歩、乗用車	5分	易国間小学校グラウンド	100m(徒歩5分)	50×80	堅固(校庭)	易国間漁港(県管理)水深5m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	中央公民館～国道279号～むつ市	陸路	50分		
																					中央公民館～易国間小学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		
																					中央公民館～国道279号～易国間漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
4	易国間地区	880人(要援護者51人)	易国間小学校	大字易国間字大川目21-3	147人	鉄骨二階建486㎡	7m	無	有	有	国道279号→村道大川目線→易国間小学校	徒歩、乗用車	5分	易国間小学校グラウンド	0m(徒歩0分)	50×80	堅固(校庭)	易国間漁港(県管理)水深5m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	易国間小学校～国道279号～むつ市	陸路	50分		
																					易国間小学校～易国間小グラウンド～むつ市	空路	不明		
																					易国間小学校～国道279号～易国間漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
5	易国間地区	880人(要援護者51人)	総合福祉センター	大字易国間字大川目11-2	350人	鉄骨平屋1734㎡	15m	無	有	有	国道279号→村道大川目線→総合福祉センター	徒歩、乗用車	5分	易国間小学校グラウンド	600m(徒歩10分)	50×80	堅固(校庭)	易国間漁港(県管理)水深5m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	総合福祉センター～国道279号～むつ市	陸路	50分		
																					総合福祉センター～易国間小グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				避難経路	方法	所要時間		
6	易国間地区	880人(要援護者51人)	風間浦中学校	大字易国間字古野18	370人	鉄骨二階建1,218㎡	27m	無	有	有	国道279号→村道統合中学校線→風間浦中学校	徒歩、乗用車	5分	風間浦中学校グラウンド	0m(徒歩0分)	110×150	堅固(校庭)	易国間漁港(県管理)水深5m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	総合福祉センター～国道279号～易国間漁港～むつ市	陸路+海路	不明		7月29日 ②14:05～14:35
																					風間浦中学校～風間浦中学校グラウンド～むつ市	空路	不明		
																					風間浦中学校～国道279号～易国間漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
7	桑畑地区	116人(要援護者5人)	桑畑温泉ゆんゆん	大字易国間字湯ノ上1-1	70人	木造平屋建230㎡	24m	無	有	有	国道279号→桑畑学校線→桑畑温泉ゆんゆん	徒歩、乗用車(村道は大型車通行不可)	5分	易国間小学校グラウンド	4km(車5分)	50×80	堅固(校庭)	桑畑漁港(村管理)水深 m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	桑畑温泉～国道279号～むつ市	陸路	45分		
																					桑畑温泉～国道279号～易国間小学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		
																					桑畑温泉～国道279号～桑畑漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
8	桑畑地区	116人(要援護者5人)	桑畑公民館	大字易国間字二ヶ川7-1	100人	木造平屋建330㎡	15m	無	有	有	国道279号→桑畑公民館	徒歩、乗用車	5分	易国間小学校グラウンド	4km(車5分)	50×80	堅固(校庭)	桑畑漁港(村管理)水深 m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	桑畑公民館～国道279号～むつ市	陸路	45分		
																					桑畑公民館～国道279号～易国間小学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		
																					桑畑公民館～国道279号～桑畑漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
9	下風呂地区	847人(要援護者29人)	下風呂公民館	大字下風呂字下風呂1	200人	鉄骨二階建690㎡	20m	無	有	有	国道279号→村道下風呂公民館線→下風呂公民館	徒歩、乗用車(村道は大型車通行不可)	5分	下風呂小学校グラウンド	3km(車3分)	50×100	堅固(校庭)	下風呂漁港(県管理)水深4m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	下風呂公民館～国道279号～むつ市	陸路	40分		
																					下風呂公民館～国道279号～下風呂小学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明		
																					下風呂公民館～国道279号～下風呂漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
	下風呂地区	847人(要援護者29人)	甲集会場	大字下風呂字甲平ノ下2-1	60人	木造平屋210㎡	7m	無	有	有	国道279号→甲集会場	徒歩、乗用車	5分	下風呂小学校グラウンド	1km(車1分)	50×100	堅固(校庭)	下風呂漁港(県管理)水深4m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	甲集会所～国道279号～むつ市	陸路	40分		

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時		
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				避難経路	方法	所要時間				
10				3																可)	甲集会所～国道279号～下風呂小グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明				
																					甲集会所～国道279号～下風呂漁港～むつ市	陸路+海路	不明				
11	下風呂地区	847人(要援護者29人)	下風呂小学校	大字下風呂字甲平ノ上18-1	265人	鉄骨二階建876㎡	54m	無	有	有	国道279号→村道甲浄水場線→下風呂小学校	徒歩、乗用車	5分	下風呂小学校グラウンド	0m(徒歩0分)	50×100	堅固(校庭)	下風呂漁港(県管理)水深4m	国道279号(桑畑～菅ノ尻)	国道279号(通行止めの場合移動不可)	下風呂小学校～国道279号～むつ市	陸路	40分				7月29日 ③14:50～15:20
																					下風呂小学校～下風呂小グラウンド～むつ市	空路	不明				
																					下風呂小学校～国道279号～下風呂漁港～むつ市	陸路+海路	不明				

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

佐井村現地調査項目



原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

町村名 佐井村

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				避難経路	方法	所要時間		
1	原田地区	268人 (要援護者46人)	原田地区生活改善センター	大字佐井字中道83-40	60人	木造平屋 326.43㎡	11m	×	○	○	国道338号～センター	バス、乗用車、徒歩	10分	佐井中学校グラウンド	約1km (徒歩15分)	80m×80m	賢固※一部芝生	原田漁港(村管理)水深2メートル	国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	避難所へのルートで一部海岸線に面した低地があり浸水等の場合移動ができない場合がある。国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。	7月28日 ⑤16:05～16:15	
																				センター～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約100分			
																				センター～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分			
																				センター～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分			
																				センター～国道338号～佐井中学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明			
																				センター～村道～原田漁港～むつ市	陸路+海路	不明			
2	佐井地区	1442人 (要援護者210人)	佐井中学校	大字佐井字中道75	370人	RC造2F 1233㎡	28m	×	○	○	国道338号～佐井中学校	バス、乗用車、徒歩	5分	同敷地内		80m×80m	賢固※一部芝生	佐井漁港(県管理)水深2メートル	国道338号	佐井中学校～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。	7月28日 ④15:40～16:00	
																				佐井中学校～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約100分			
																				佐井中学校～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分			
																				佐井中学校～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分			
																				佐井中学校グラウンド～むつ市	陸路+空路	不明			
																				佐井中学校～国道338号～漁港道～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明			
3	佐井地区	1442人 (要援護者210人)	長福寺	大字佐井字古佐井12-1	100	木造平屋	15m	×	○	○	国道338号～村道～長福寺	乗用車、徒歩(大型バスは不可)	5分	佐井漁港	約500m (徒歩8分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(県管理)水深2メートル	県道薬研佐井線、国道338号	長福寺～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用		
																				長福寺～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約100分			
																				長福寺～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分			

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
3																			長福寺～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分				
																			長福寺～村道～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明				
																			長福寺～村道～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明				
4	佐井地区	1442人(要援護者210人)	農業研修センター	大字佐井字古佐井川目2-7	60	木造平屋652.83㎡	7m	×	○	○	県道～センター	バス、乗用車、徒歩	5分	佐井漁港	約500m(徒歩8分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(水深2メートル)	上流部に土石流災害区域有	県道薬研佐井線、国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。 ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用	
																			センター～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約90分				
																			センター～県道薬研佐井線～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分				
																			センター～県道薬研佐井線～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分				
																			センター～県道薬研佐井線～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明				
																			センター～県道薬研佐井線～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明				
5	佐井地区	1442人(要援護者210人)	八幡堂	大字佐井字八幡堂	20	木造平屋	25m	×	○	×	国道338号、県道川内佐井線、村道～八幡宮	乗用車、徒歩(大型バスは不可)	8分	佐井漁港	約800m(徒歩10分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(水深2メートル)	県道、国道のアクセス途中に急傾斜地の指定箇所有	県道川内佐井線、国道338号	八幡堂～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。 ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用	
																			八幡堂～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約90分				
																			八幡堂～村道～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分				
																			八幡堂～村道～県道川内再選～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分				
																			八幡堂～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明				
																			八幡堂～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明				

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
6	佐井地区	1442人(要援護者210人)	佐井小学校	大字佐井字糠森103-3	320人	RC造3F1063㎡	9m	×	○	○	国道338号～小学校	バス、乗用車、徒歩	8分	佐井漁港	約300m(徒歩5分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(県管理)水深2メートル		国道338号、ふるさと林道	小学校～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用	7月28日 ③15:10～15:30
																					小学校～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約90分		
																					小学校～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分		
																					小学校～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分		
																					小学校～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明		
																					小学校～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
7	佐井地区	1442人(要援護者210人)	佐井村振興センター	大字佐井字糠森20	20	RC造2F1103.64㎡	25m	○	○	○	国道338号～振興センター	バス、乗用車、徒歩	8分	佐井漁港	約300m(徒歩5分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(県管理)水深2メートル		国道338号、ふるさと林道	小学校～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約80分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用	
																					小学校～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約90分		
																					小学校～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分		
																					小学校～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約200分		
																					小学校～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明		
																					小学校～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明		
8	矢越地区	203人(要援護者35人)	矢越地区生活改善センター	大字佐井字糠森130-2	70人	木造平屋339.52㎡	34m	×	○	○	国道338号～センター	バス、乗用車、徒歩	10分	佐井漁港	約1.5km(徒歩25分)	80m×100m	舗装	佐井漁港(県管理)水深2メートル	国道沿いに急傾斜地及び地滑り指定箇所有	国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約90分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線は冬季間通行止め。ヘリポート候補地については漁港内にあるため浸水の場合使用不可となり、その場合は佐井中学校を使用	
																					センター～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約110分		
																					センター～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約100分		

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法			所要時間
8																		センター～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約190分					
																		センター～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+空路	不明					
																		センター～国道338号～佐井漁港～むつ市	陸路+海路	不明					
9	磯谷地区	165人(要援護者22人)	旧磯谷小中学校	大字佐井字磯谷102-1	80人	木造平屋1069㎡	24m	×	○	○	国道	乗用車、徒歩(大型バスは不可)	8分	漁業集落排水処理施設敷地	約500m(徒歩8分)	50m×50m	展圧なし※一部道路部分舗装	磯谷漁港(村管理)水深2メートル	避難経路内に土石流警戒区域有、避難地背後に地滑り指定箇所有	村道川磯線、林道、国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約110分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線・村道川磯線、林道は冬季間通行止め。ヘリポート候補地については海岸付近のため浸水の場合使用不可	
																			センター～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約130分				
																				センター～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約120分			
																				センター～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約190分			
																				センター～村道川磯線～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分			
																				センター～林道～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約110分			
																				センター～村道～国道338号～処理場～むつ市	陸路+空路	不明			
10	長後地区	81人(要援護者14人)	長後地区生活改善センター	大字長後字長後川目22	60人	木造平屋282.38㎡	10m	×	○	○	村道	乗用車、徒歩(大型バスは不可)	5分	旧長後小中学校用地	隣接地	50m×50m	賢固	長後漁港(村管理)水深1.5メートル	途中に土砂災害、急傾斜地、地滑りの指定箇所有	村道、国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約130分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線・村道川磯線、林道は冬季間通行止め。	7月28日 ①13:20～13:40
																				センター～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約140分			
																				センター～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約130分			
																				センター～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約180分			

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				避難経路	方法	所要時間			
13	牛滝地区	117人(要援護者12人)	牛滝地区交流促進センター	大字長後字牛滝川目100-1	90人	木造平屋 497.34㎡	9m	×	○	○	村道～センター	バス、乗用車、徒歩	5分	野平高原キャンプ場	約5キロ(車10分)	50m×50m	舗装(駐車場)	牛滝漁港(県管理)水深3メートル	地区内及び施設付近に土石流、急傾斜地指定箇所所有	村道、国道338号	センター～国道338号～国道279号～むつ市	陸路	約160分	国道279号が通行止めの場合利用不可、県道薬研佐井線・県道川内佐井線・村道川磯線、林道は冬季間通行止め。		
																					センター～村道～国道338号～県道薬研佐井線～むつ市	陸路	約170分			
																					センター～村道～国道338号～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約150分			
																					センター～村道～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路	約100分			
																					センター～sp村道～国道338号～村道川磯線～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約140分			
																					センター～村道～国道338号～林道～県道川内佐井線～むつ市	陸路	約140分			
																					センター～村道～国道338号～県道長後川内線～むつ市	陸路+空路	不明			
																					センター～村道～牛滝漁港～むつ市	陸路+海路	不明			
14	牛滝地区	117人(要援護者12人)	牛滝小中学校	大字長後字牛滝川目21-1	90人	S造 2F 1036㎡	10m	×	○	○	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上			

※管内図(避難所の記載あり)、避難経路図、避難所及びヘリポート候補地の周辺図等を添付してください。

むつ市現地調査項目



原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無	給水	炊飯	収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号							
	地区名	地区人口										避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法				所要時間						
1	むつ市	本町 田名部町 柳町一丁目 ~柳町四丁目 栗山町 女館 尻釜 宮後 樺山 上川町 横迎町一丁目 ~横迎町二丁目	67 192 2,341 620 368 49 169 918 1,704 562 151 121 1,021 62	第一田名部小学校 体育館 むつ中学校 体育館 むつ来さい館 むつ下北 観光物産館 柳町ひまわり保育園 遊戯室等 横迎町保育所 遊戯室等	柳町二丁目7-1 栗山町17-2 田名部町10-1 柳町1-10-25 柳町一丁目9-13 横迎町 二丁目3-23	270 515 1,215 864 58 76	鉄骨造 鉄骨造 鉄骨造 鉄筋コン 木造 木造	約18m 約37m 約6m 約5m 約6m 約4m	○ ○ ○ ○ ×	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	国道338号 国道279号 国道6号 市道	乗用車 徒歩 乗用車 徒歩 乗用車 徒歩 乗用車 徒歩	むつ運動公園 陸上競技場 (山田町43番1)	約2.8km 約2.6km 約3.0km 約3.0km 約2.9km 約3.1km	芝生 芝生	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路 陸路 陸路 陸路 陸路	約2時間 約2時間 約2時間 約2時間 約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。	②9月9日 10:00~10:30	1 2 3 4 5 6									
		2	土手内	547	土手内集会所 集会所	宇土手内74-922	70	木造	約5m	×	○	○	市道	乗用車 徒歩	むつ運動公園 陸上競技場 (山田町43番1)	約3.9km	芝生	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難経路沿いに 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		7								
		3	仲町 若松町 海老川町 港町 緑町 下北町	1,562 806 1,516	田名部中学校 体育館	緑町22-8	803	鉄筋コン	約6m	×	○	○	国道272号 国道177号 国道176号 市道	乗用車 徒歩	原子力球場	堅固 (グラウンド)	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路 陸路	約2時間 約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		8 9 10 11									
				3 990 914	田名部高等学校 体育館	海老川町6-18	804	鉄筋コン	約6m	×	○	○		乗用車 徒歩											約1.7km	約1.4km	約1.7km						
					緑町保育所 遊戯室等	緑町8-10	57	木造	約4m	×	○	○		乗用車 徒歩											約1.4km	約1.7km	約1.7km						
					海老川コミュニティーセンター 集会所等	緑町3-1	83	木造	約6m	○	○	○		乗用車 徒歩											約1.7km	約1.7km	約1.7km						
		4	新町 苫生一丁目 ・苫生二丁目 金曲一丁目 昭和町	2,355 897 1,335 1,347	苫生小学校 体育館 新町保育所 遊戯室等 緑寿荘 集会所等	金曲一丁目5-10 新町6-35 新町32-36	372 73 63	鉄筋コン 木造 木造	約4m 約6m 約6m	○ ×	○ ○	○ ○ ×	国道279号 国道177号 市道	乗用車 徒歩 乗用車 徒歩 乗用車 徒歩	原子力球場	堅固 (グラウンド)	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路 陸路	約2時間 約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		12 13 14									
5	小川町一丁目 ・小川町二丁目 金谷一丁目 ・金谷二丁目 中央一丁目 岩菜 金谷団地 緑ヶ丘 松山町 十二林 美里町 長坂	2,089 1,550 248 9 39 871 771 228 197 41	第二田名部小学校 体育館 小川町 第2百合保育園 遊戯室等 市民体育館 体育館	小川町 一丁目18-10 小川町 一丁目15-13 金谷一丁目7-26	349 42 510	鉄骨造 木造 鉄骨造	約14m 約13m 約6m	×	○ ○	○ ○ ×	国道338号 国道4号 市道	乗用車 徒歩 乗用車 徒歩 乗用車 徒歩	むつ運動公園 陸上競技場 (山田町43番1)	約2.0km 約2.1km 約1.8km	芝生	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難経路沿いに 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路 陸路	約2時間 約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		15 16 17										
		6	南町 赤川町 南赤川町 松原町 金曲二丁目 ・金曲三丁目 大曲一丁目 ~大曲三丁目	453 205 43 275 1,285 1,212	第三田名部小学校 体育館 大曲コミュニティーセンター 研修室等	金曲二丁目11-12 大曲二丁目1-1	143 94	木造 木造	約5m 約7m	×	○ ○	○ ○	国道279号 国道271号 国道176号 市道	乗用車 徒歩 乗用車 徒歩	原子力球場 原子力球場	堅固 (グラウンド) 堅固 (グラウンド)	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路	約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		18 19									
		7	山田町 真砂町 文京町 並川町 大平町 大湊新町	1,358 16 932 1,099 1,404 1,062	大平小学校 体育館 大平中学校 体育館	大平町8-6 並川町2-4	450 479	鉄筋コン 鉄筋コン	約14m 約24m	×	○ ○	○ ○	○ ○	国道279号 国道271号 国道176号 市道 国道338号 国道174号	乗用車 徒歩 乗用車 徒歩	大平岸壁 大平岸壁	堅固 堅固	大平岸壁 (県管理) 水深8m 大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所東側、南側に 急傾斜地警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市 国道279号 国道338号 ~青森市	陸路 陸路	約2時間 約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。 東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。	③9月9日 11:00~11:30	20 21								

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無	給水	炊飯	収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号
	地区名	地区人口										避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				名称(所在地)	避難所からの距離	方法			
7	旭町 中央二丁目 荒川町 松森町 越葉沢(落葉沢)	1,031 967 599 756 60	むつ工業高等学校 体育館	文京町22-7	703	鉄筋コン	1,406	約32m	×	○	○	市道	乗用車 徒歩			陸上競技場 (山田町4番3号)	約0.5km			大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所西側に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		22
			大平保育所 遊戯室等	大平町39-6	47	木造	94	約10m		○	○		市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約1.0km	堅固	大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		23
8	大湊浜町 大湊上町 川守町	562 599 851	大湊小学校 体育館	大湊上町43-32	438	鉄筋コン	875	約14m		○	○	市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約2.5km		大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所海沿いに 急傾斜地崩壊危険箇所 周辺が土石流警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		24	
			勤労青少年ホーム 体育館	大湊上町3-12	273	鉄筋コン	958	約16m	○	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約1.9km	堅固	大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺が 土石流警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		25	
			むつ市中央公民館 講堂	大湊浜町13-1	140	鉄筋コン	279	約6m	○	○	○	市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約1.8km		大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		26	
			福寿荘 集会室等	川守町5-9	78	木造	156	約32m	○	○	×	市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約2.5km		大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		27	
9	宇田町 桜木町 大湊町 宇曾利川	564 1,262 852 180	大湊中学校 体育館	桜木町19-1	455	鉄筋コン	910	約54m		○	○	市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約3.3km		大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。	④9月9日 13:00～13:30	28	
			大湊高等学校 体育館	大湊 宇大近川14-84	794	鉄筋コン	1,588	約62m		○	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約3.6km	堅固	大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流特別警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		29
			学習センター 集会室等	宇田町21-25	142	鉄筋コン	283	約39m		○	○		市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約3.0km		大平岸壁 (県管理) 水深8m	避難所周辺に 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流特別警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		30
10	堺田 城ヶ沢 新城ヶ沢 泉沢 永下 近沢 大川目 角達	35 189 234 107 27 52 171	城ヶ沢小学校 体育館	城ヶ沢字畑下丁塚1	144	鉄骨造	288	約10m		○	×	国道338号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約10.0km	堅固	角達漁港 (市管理) 水深2m	避難所北側に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		31	
			旧角達小学校 体育館	城ヶ沢 字流道14-60	127	木造	253	約12m		○	×		市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約14.0km	堅固	角達漁港 (市管理) 水深2m	避難所北側に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		32
11	一里小屋 大室平 金谷沢 神山	162 151 190 41	旧金谷沢小学校 体育館	奥内 字金谷沢1-28	64	木造	128	約7m	×	×	×	国道279号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約10.0km	堅固 (グラウンド)	浜奥内漁港 (市管理) 水深2～3m		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		33	
			今泉 石蔵平 二又 奥内 浜奥内 近川 中野沢 中野沢開拓	27 9 289 143 320 25	奥内小学校 体育館	奥内字中野40	368	鉄筋コン	736	約23m	○	○	×	市道	乗用車 徒歩			原子力球場	約13.0km	堅固 (グラウンド)	浜奥内漁港 (市管理) 水深2～3m		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。	
12	奥内 浜奥内 近川 中野沢 中野沢開拓	289 143 320 25	近川中学校 体育館	奥内字江豚沢1-2	348	鉄筋コン	696	約21m	○	○	○	国道279号 県道7号 市道	乗用車 徒歩			原子力球場	約14.0km	堅固 (グラウンド)	浜奥内漁港 (市管理) 水深2～3m		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		35	
			旧中野沢小学校 体育館	中野沢 字上山道8-25	255	木造	509	約46m	×	×	×		市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約16.0km		浜奥内漁港 (市管理) 水深2～3m		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		36
13	南関根 名古平 北関根 出戸 美付 水川目 浜関根 清平 高梨 南名古平	340 62 322 160 5 64 300 2 64 4	関根小学校 体育館	関根 字北関根100-1	347	鉄筋コン	693	約44m		○	○	国道279号 県道266号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約4.0km		高梨地区一帯が 土石流特別警戒区域		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		37	
			関根中学校 体育館	関根字北関根133	169	木造	338	約42m	×	○	×		市道	乗用車 徒歩			正津川小学校 グラウンド (大畑町 正津川平 114-20)	約4.3km	堅固 (グラウンド)	関根漁港 (市管理) 水深2～3m	高梨地区一帯が 土石流特別警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		38
14	川代 鳥沢 新田 上新田	211 352 21 6	川代小学校 体育館	関根字安畑49-1	145	木造	290	約9m	×	○	×	国道279号 市道	乗用車 徒歩			大平岸壁	約2.0km		正津川漁港 (県管理) 水深2m		国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		39	
			新町 福木 熊ヶ平	201 209 240	第一川内小学校 体育館	川内町熊ヶ平1-3	303	鉄骨造	605	約21m	○	○	○	市道	乗用車 徒歩			川内体育館 敷地内	約0.5km		関根漁港 (県管理) 水深2～3m	避難所西側、南東に 急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。	
15	新町 福木 熊ヶ平	201 209 240	新町集会所 集会室等	川内町熊ヶ平1-5	25	木造	49	約3m		○	○	国道338号	乗用車 徒歩			川内体育館 敷地内	約0.6km	堅固	関根漁港 (県管理) 水深2～3m	避難所北東に 急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域	国道279号 国道338号 ～青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		41	

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無	収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号	
	地区名	地区人口								避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法				所要時間
15			旧第一川内保育所 遊戯室等	川内町福木38	175	木造	350	約5m	○	○	県道46号 市道	乗用車 徒歩	川内町 福木153	約0.2km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		42		
			あたご幼稚園 遊戯室等	川内町川内87	25	木造	50	約5m	○	×		乗用車 徒歩			約0.4km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		43	
16	谷地町 中町 浦町 上町 浜町 板子塚	209 109 73 179 149 99	川内体育館 体育館	川内町福木153	488	鉄骨造	975	約6m	○	○		乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内	同敷地内		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		44		
			川内公民館 集会室等	川内町福木153	409	鉄筋コン	817	約6m	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩	川内町 福木153	同敷地内	堅固 (グラウンド)	川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		45		
			中浦集会所 集会室等	川内町川内435-2	27	木造	53	約5m	×	○	○		乗用車 徒歩			約0.5km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		46
17	仲崎 初見 葛沢	814 137 26	川内中学校 体育館	川内町休所5-1	350	鉄骨造	700	約5m	○	○		乗用車 徒歩			約1.1km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	5月9日 14:00~14:30	47	
			健康管理センター 集会室等	川内町休所42	66	木造	132	約5m	○	○		乗用車 徒歩			約1.2km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		48	
			エビナ保育園 遊戯室等	川内町 休所42-184	110	木造	220	約5m	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩	大湊高校 川内校舎校庭 川内町 家ノ上48	堅固 (グラウンド)	川川漁港 (県管理) 水深2~3m	初見地区一帯が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地前域危険箇所 土石流特別警戒区域		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		49		
			初見地区公民館 集会室等	川内町 休所42-140	25	木造	49	約9m	○	○		乗用車 徒歩			約0.7km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		50	
			仲崎コミュニティセンター 集会室等	川内町川内424	17	木造	33	約4m	○	○		乗用車 徒歩			約1.5km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		51	
18	戸沢 斐川	106 88	戸沢地区公民館 集会室等	川内町川代15-1	41	木造	82	約3m	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内		約4.5km		角達漁港 (市管理) 水深2m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		52	
			斐川地区公民館 集会室等	川内町 斐川103-80	33	木造モル	66	約12m	○	○		乗用車 徒歩	川内町 福木153	堅固 (グラウンド)	角達漁港 (市管理) 水深2m	避難所南側の海沿いに 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地前域危険箇所		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		53		
19	田野沢	168	田野沢地区公民館 集会室等	川内町田野沢126	25	木造	49	約8m	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内	堅固 (グラウンド)	約1.5km		角達漁港 (市管理) 水深2m	避難所周辺の 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地前域危険箇所		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		54
20	石倉 高野川	13 11	石倉地区公民館 集会室等	川内町 石倉沢75-2	24	木造	48	約39m	○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内	堅固 (グラウンド)	約3.5km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m	高野川地区の一部に 土石流特別警戒区域 土石流警戒区域		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		55
			上小倉平 下小倉平 銀杏木 安部城	115 43 165 109	上小倉平地区公民館 集会室等	川内町 上小倉平140-1	25	木造	49	約17m	○	○		乗用車 徒歩			約3.5km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	
21			下小倉平地区公民館 集会室等	川内町下小倉平98	20	木造	40	約17m	○	○		乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内		約2.5km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 土石流警戒区域		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		57
			銀杏木地区公民館 集会室等	川内町銀杏木31	20	木造	40	約21m	○	○	県道46号 市道	乗用車 徒歩	川内町 福木153	堅固 (グラウンド)	川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		58			
			安部城地区公民館 集会室等	川内町 新田290-44	20	木造	40	約38m	○	○		乗用車 徒歩			約5.0km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地前域危険箇所		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		59
			第二川内小学校 体育館	川内町立越4-17	165	鉄骨造	330	約20m	○	○		乗用車 徒歩			約4.0km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		60	
22	畑	96	畑地区公民館 集会室等	川内町家ノ辺97	41	木造	82	約81m	○	○	県道46号 市道	乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内	堅固 (グラウンド)	約13.0km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 土石流警戒区域 急傾斜地前域危険箇所		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		61
			旧畑小学校 体育館	川内町 家ノ辺100-87	165	木造	330	約86m	○	○		乗用車 徒歩	川内町 福木153	堅固 (グラウンド)	川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 土石流警戒区域		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		62		
23	湯野川	73	湯野川地区公民館 集会室等	川内町 湯野川25-1	41	木造	82	約113m	○	○	県道46号 市道	乗用車 徒歩	川内体育館 敷地内	堅固 (グラウンド)	約15.0km		川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地前域危険箇所		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。		63
			旧湯野川小学校 体育館	川内町湯野川3-3	99	木造	198	約124m	○	○		乗用車 徒歩	川内町 福木153	堅固 (グラウンド)	川川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺の 急傾斜地特別警戒区域		国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合		64		

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無	収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号	
	地区名	地区人口								避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法				所要時間
24	松川	470	松川地区公民館 集会室等	川内町川代4-1	20	木造	約13m	○	○	国道338号市道	乗用車 徒歩	大湊高校 川内校舎校庭 (川内町 家ノ上48)	堅固 (グラウンド)	水深2~3m	急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	広域への避難は困難となる。			65			
			旧松川小学校 体育館	川内町川代225-1	418	鉄骨造	約25m	○	○		約0.5km			松川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所周辺に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	66
			大湊高等学校 川内校舎 体育館	川内町家ノ上48	1,250	鉄骨造	約26m	○	○		同敷地内			松川漁港 (県管理) 水深2~3m	避難所北側、南側に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	67
25	宿野部	357	宿野部地区公民館 集会室等	川内町 宿野部106-1	20	木造	約3m	○	○	国道338号市道	乗用車 徒歩	大湊高校 川内校舎校庭 (川内町 家ノ上48)	堅固 (グラウンド)	水深2~3m	急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			68			
			旧宿野部小学校 体育館	川内町宿野部 榎木平56-13	149	鉄骨造	約10m	○	○		約3.0km			宿野部漁港 (県管理) 水深2m	避難経路沿いに 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	69
26	蛸崎	306	蛸崎地区公民館 集会室等	川内町 蛸崎寺ノ前148-36	20	木造	約0m	○	○	国道338号市道	乗用車 徒歩	小沢地区 公民館敷地内 (脇野沢 小沢沢1-9)	堅固 (グラウンド)	水深2~3m	急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			70			
			旧蛸崎小学校 体育館	川内町 蛸崎合野74-1	159	木造	約7m	○	○		約2.0km			蛸崎漁港 (県管理) 水深2m	避難所北側に 土石流特別警戒区域 土石流警戒区域				国道279号 国道338号 ~青森市				約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	71
27	正津川 平 高待	336 647 99	正津川小学校 体育館	大畑町 正津川平114-20	281	鉄骨造	約6m	○	○	国道279号市道	乗用車 徒歩	正津川小学校 グラウンド (大畑町 正津川平 114-20)	堅固 (グラウンド)	水深2m	正津川漁港 (県管理) 水深2m	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			72			
			正津川地区公民館 集会室等	大畑町 正津川平87-1	169	鉄骨造	約6m	○	○		約0.5km			正津川漁港 (県管理) 水深2m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	73
			正津川児童館 体育館	大畑町 正津川平114-64	90	木造	約6m	○	○		約0.2km			正津川漁港 (県管理) 水深2m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	74
28	(大畑) 上野 簡万坂 東町 庚申堂	1,519 177 261 105	東町町内会館 集会室等	大畑町 簡万坂56-7	51	木造	約6m	×	○	国道279号 国道238号市道	乗用車 徒歩	大畑小学校 グラウンド (大畑町 伊勢堂1-1)	堅固 (グラウンド)	水深2~7.5m	急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			75			
			大畑小学校 体育館	大畑町伊勢堂1-1	473	鉄骨造	約9m	○	○		同敷地内			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	避難所南側に 急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	76
			大畑公民館 講堂	大畑町中島108-5	270	鉄筋コン	約5m	○	○		約0.1km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	77
			大畑体育館 体育館	大畑町中島108-5	466	鉄骨造	約5m	○	○		約0.1km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	78
			上野町町内会館 集会室等	大畑町上野85	47	木造	約8m	×	○		約0.3km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	79
29	中島 新町	469 374	中島児童館 体育館	大畑町中島72-2	134	木造	約4m	○	×	国道279号 国道238号市道	乗用車 徒歩	大畑小学校 グラウンド (大畑町 伊勢堂1-1)	堅固 (グラウンド)	水深2~7.5m	急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			80			
			中島町内会館 集会室等	大畑町中島80-16	25	木造	約6m	×	○		約0.2km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	81
			大畑中央保育所 遊戯室等	大畑町中島4-4	253	木造	約3m	○	○		約0.4km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	82
			新町町内会館 集会室等	大畑町新町99-1	39	木造	約4m	×	○		約0.5km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	83
30	湯坂下	518	湯坂下児童館 体育館	大畑町湯坂下9-4	90	木造	約6m	○	×	国道279号 国道4号市道	乗用車 徒歩	大畑小学校 グラウンド (大畑町 伊勢堂1-1)	堅固 (グラウンド)	水深2~7.5m	急傾斜地崩壊危険箇所 急傾斜地特別警戒区域	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			84			
			湯坂下町内会館 集会室等	大畑町湯坂下9-4	52	木造	約6m	○	○		約0.7km			大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	避難所北側に 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所				国道279号 国道338号 ~青森市				約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	85
31	本町 南町 免沢 庚申堂	764 496 516 105	本町町内会館 集会室等	大畑町庚申堂9-7	50	木造	約5m	○	○	国道279号市道	乗用車 徒歩	大畑小学校 グラウンド (大畑町伊勢堂1-1)	堅固 (グラウンド)	水深2~7.5m	急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。			86			
			大畑中学校	大畑町免沢17-7		鉄骨造					乗用車			大畑漁港	避難所南側に				国道279号					東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	①9月9日

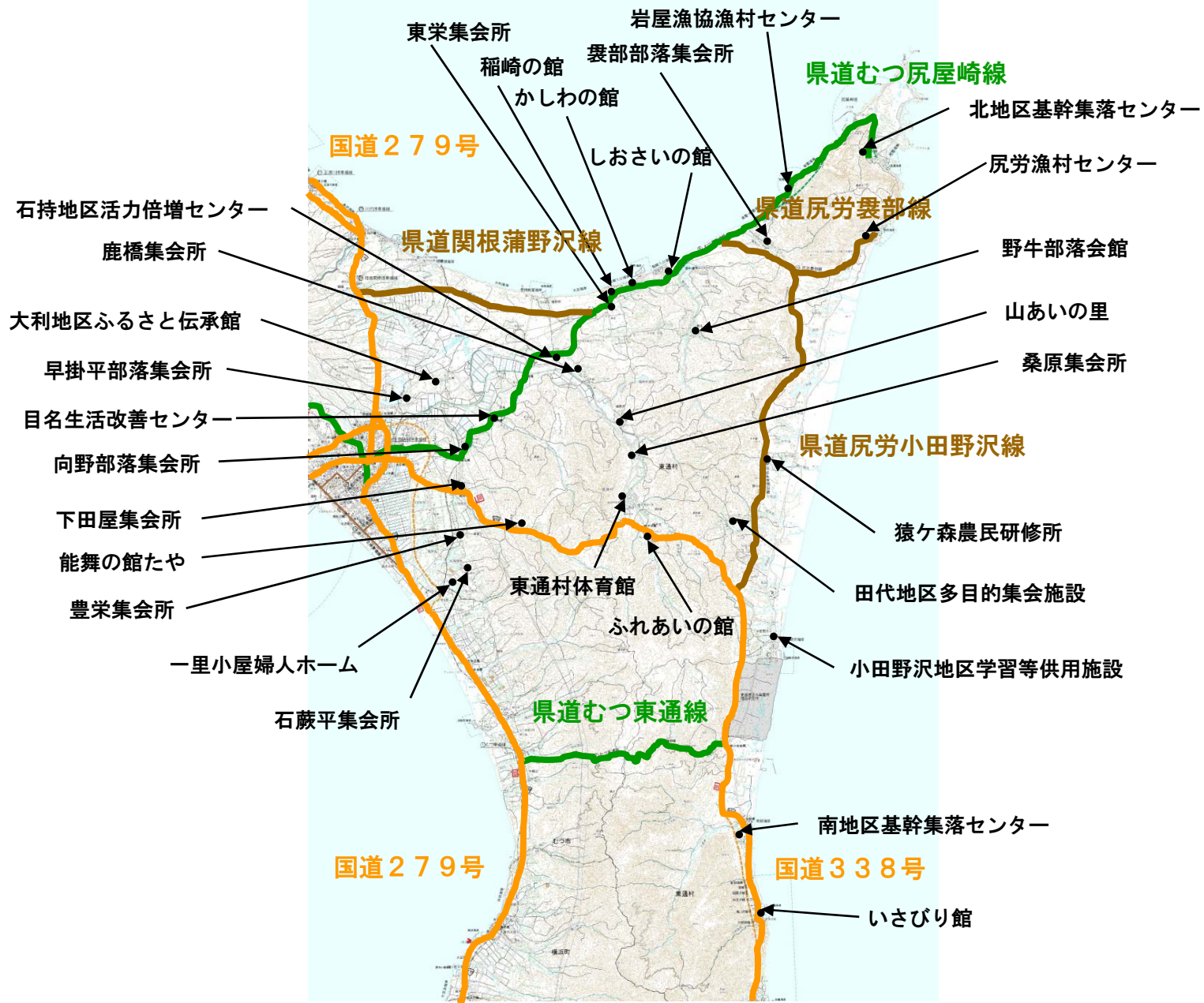
原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無	収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号									
	地区名	地区人口								避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積				地盤(地目等)	避難経路	方法				所要時間								
31			体育館	大畑町 観音堂25-1	714	1,427	約23m		○	○	国道279号	徒歩				大畑中学校 グラウンド 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道338号 ~青森市	陸路	約2時間半	たる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	9:00~9:30	87										
			総合福祉センター 集会室等		84	168	約5m	×	○	○	県道238号 市道	乗用車 徒歩													国道279号 水深2~7.5m	急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	88		
32		423 214 124	孫次郎間地区公民館 集会室等	大畑町 孫次郎間19-24	61	122	約17m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩				二枚橋小学校 グラウンド 大畑町 釣屋浜22-72	大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	89										
			二枚橋地区公民館 集会室等		163	326	約17m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
			二枚橋小学校 体育館		281	561	約31m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
33		126 35	小目名地区公民館 集会室等	大畑町小目名村54	61	121	約30m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩				旧小目名小学校 グラウンド 大畑町 小目名家ノ下	大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	92										
			旧小目名小学校 体育館		66	132	約16m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
			高橋川コミュニティーセンター 集会室等		25	49	約23m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
34		72 53 126	木野部地区公民館 集会室等	大畑町佐助川129-3	57	114	約24m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩				二枚橋小学校 グラウンド 大畑町 釣屋浜22-72	木野部漁港 (県管理) 水深1m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	95										
			旧佐助川小学校 体育館		412	823	約21m		○	×	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
			赤川地区公民館 集会室等		55	110	約20m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
			むつ市下北自然の家 体育館		309	618	約56m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩																					
35		201	旧関根橋小学校 体育館	大畑町 正津川大畑道31-4	73	145	約34m		○	○	市道	乗用車 徒歩				田名部高校 大畑庁舎校庭 大畑町 尻沢17-200	正津川漁港 (県管理) 水深2m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	99										
			関根橋地区公民館 集会室等		58	115	約24m		○	○	市道	乗用車 徒歩																					
36		469	湊町内会館 集会室等	大畑町湊村159-4	43	85	約6m		○	○	国道279号 市道	乗用車 徒歩				大畑小学校 グラウンド 大畑町 伊勢堂1-11	大畑漁港 (県管理) 水深2~7.5m	避難所周辺が 急傾斜地特別警戒区域 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深2~7.5m	陸路	約2時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	101										
			大畑コミュニティーセンター 集会室等		117	233	約5m		○	○	国道232号 市道	乗用車 徒歩																					
37	(桂沢) (本村) (渡向)	1,250	脇野沢小学校 体育館	脇野沢 桂沢71-1	348	696	約19m		○	○	国道338号 市道	乗用車 徒歩				脇野沢小学校 グラウンド 脇野沢 桂沢71-1	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m	避難所南側に 急傾斜地崩壊危険箇所 北側に土石流警戒区域	国道279号 水深1.5~4m	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	103										
			地域交流センター アリーナ		231	463	約7m		○	○	国道175号 市道	乗用車 徒歩																					
38	(瀬野川目) (黒岩)	256	脇野沢中学校 体育館	脇野沢 瀬野川目85-2	379	758	約40m		○	○	国道175号 市道	乗用車 徒歩				脇野沢 総合運動場 脇野沢 瀬野川目152	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m	避難所周辺が 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深1.5~4m	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	105										
			瀬野地区 コミュニティーセンター		164	328	約7m		○	○	市道	乗用車 徒歩																					
39	(赤坂) (稲平) (小沢) (鹿間平)	386	小沢地区公民館 集会室等	脇野沢小沢1-9	670	1,340	約13m		×	○	国道175号 市道	乗用車 徒歩				小沢地区 公民館敷地内 脇野沢 小沢沢1-9	小沢漁港 (県管理) 水深1.5~2m	避難所周辺が 急傾斜地崩壊危険箇所	国道279号 水深1.5~2m	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	107										
			小沢地区 生活福祉センター		201	402	約7m		○	○	市道	乗用車 徒歩																					
40		81 78 95	滝山地区公民館 集会室等	脇野沢滝山315	500	1,000	約42m		○	×	国道175号 市道	乗用車 徒歩				滝山地区 公民館敷地内	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m	避難所周辺が 急傾斜地崩壊危険箇所 西側に土石流警戒区域	国道279号 水深1.5~4m	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合 広域への避難は困難となる。	109										
			源藤城																														

原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積(m ²)	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区から最寄りの避難所への避難方法等			近隣のヘリポート候補地				近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	最寄りの避難所から広域の避難方法等			特記事項	調査日時	番号
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難経路	手段	所要時間	名称(所在地)	避難所からの距離	地積	地盤(地目等)				名称(所在地)	避難所からの距離	地積			
40			滝山地区生活福祉センター	脇野沢滝山150	150	382	約31m		○	○	市道	乗用車 徒歩		脇野沢 (滝山315)	約0.1km		地盤 (グラウンド)	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 西側に土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		110	
41	九艘泊 (羊田)	94	九艘泊地区公民館 集会室等	脇野沢九艘泊110	345	689	約21m		○	×	県道175号	乗用車 徒歩		脇野沢 総合運動場 (脇野沢 瀬野川目152)	約6.0km		堅固 (グラウンド)	九艘泊漁港 (市管理) 水深2~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		111	
			羊田地区集会所	脇野沢九艘泊14-3	15	30	約27m		○	○	市道	乗用車 徒歩		脇野沢 瀬野川目152)	約5.0km		堅固 (グラウンド)	九艘泊漁港 (市管理) 水深2~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		112	
42	新井田	34	新井田地区生活改善センター	脇野沢新井田12	61	121	約6m		○	×	県道175号 市道	乗用車 徒歩		脇野沢 総合運動場 (脇野沢 瀬野川目152)	約0.7km		堅固 (グラウンド)	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		113	
43	寄浪	108	寄浪地区生活福祉センター	脇野沢寄浪41	166	332	約23m		○	○	県道175号 市道	乗用車 徒歩		脇野沢 総合運動場 (脇野沢 瀬野川目152)	約1.5km		堅固 (グラウンド)	脇野沢漁港 (県管理) 水深1.5~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		114	
44	蛸田	40	蛸田地区生活福祉センター	脇野沢蛸田86	161	322	約15m		○	○	県道175号 市道	乗用車 徒歩		脇野沢 総合運動場 (脇野沢 瀬野川目152)	約3.0km		堅固 (グラウンド)	九艘泊漁港 (市管理) 水深2~4m 急傾斜地崩壊危険箇所 土石流警戒区域	避難所周辺に	国道279号 国道338号 ~青森市	陸路	約3時間半	東通原子力発電所にて広域にわたる原子力災害が起こった場合広域への避難は困難となる。		115	

東通村現地調査項目



原発避難PTの現地調査項目(避難所及び近隣の状況)

町村名 東通村

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高(海拔)	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区からの避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難路	方法	所要時間	場所	避難所からの距離	地積						地盤(地目等)
1	大和地区	129人(要援護者3名)	大和地区ふるさと伝承館	大和字冷水5-2	227人	木造平屋454.8㎡	19m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩10分	旧大和小学校校庭	約1.5km(徒歩15分)	75m×75m	堅固(グラウンド)	無	無	村道		
2	早掛平地区	87人(要援護者3名)	早掛平部落集会所	大和字早掛平27-3	34人	木造平屋69.55㎡	20m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧大和小学校校庭	約2km(徒歩20分)	75m×75m	堅固(グラウンド)	無	無	村道		
3	向野地区	136人(要援護者1名)	向野部落集会所	目名字向野38-1	150人	木造平屋224.82㎡	11m	×	○	○	県道6号(主要地方道むつ尻屋崎線)	乗用車、バス、徒歩	徒歩5分	旧目名小学校グラウンド	約1km(徒歩10分)	100m×120m	堅固(グラウンド)	無	無	県道(主要地方道むつ尻屋崎線)		
4	目名地区	214人(要援護者4名)	目名生活改善センター	目名字小田野坂41	148人	木造2階建	20m	×	○	○	県道6号(主要地方道むつ尻屋崎線)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧目名小学校グラウンド	約0.5km(徒歩5分)	100m×120m	堅固(グラウンド)	無	無	県道(主要地方道むつ尻屋崎線)		
5	石持地区	214人(要援護者6名)	石持地区活力倍増センター	蒲野沢字石持51-1	229人	木造平屋458.3㎡	37m	×	○	○	県道6号(主要地方道むつ尻屋崎線)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧石持小学校グラウンド	約0.5km(徒歩5分)	80m×70m	堅固(グラウンド)	石持漁港(村管理)深水2m	無	県道(主要地方道むつ尻屋崎線)		
6	鹿橋地区	167人(要援護者7名)	鹿橋集会所	蒲野沢字鹿橋2-12	150人	木造平屋294.77㎡	30m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧石持小学校グラウンド	約2km(徒歩20分)	45m×70m	堅固(グラウンド)	無	無	村道及び県道		
7	蒲野沢地区	271人(要援護者8名)	山あいの里	蒲野沢字前田24-1	296人	木造平屋593.24㎡	20m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧蒲野沢小学校グラウンド	約0.5km(徒歩5分)	100m×120m	堅固(グラウンド)	無	無	村道		
8	桑原地区	39人(要援護者1名)	桑原集会所	蒲野沢字新田29-12	27人	木造平屋54.86㎡	25m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	東通オフサイトセンター	約1km(徒歩10分)		堅固(舗装)	無	無	村道		
9	東栄地区	25人(要援護者1名)	東栄集会所	蒲野沢字大久保96	21人	木造平屋43.06㎡	45m	×	○	○	村道(幅員5m)	乗用車、徒歩	徒歩8分	東通村北部総合グラウンド	約1.5km(徒歩15分)	100m×140m	堅固(グラウンド)	無	無	村道及び県道		
10	稲崎地区	47人(要援護者2名)	稲崎の館	野牛字稲崎平21-1	49人	木造平屋99.51㎡	21m	×	○	○	村道(幅員6m)	徒歩	徒歩5分	旧入口小学校グラウンド	約1.5km(徒歩15分)	100m×100m	堅固(グラウンド)	野牛漁港県管理(水深m)	無	村道及び県道		
11	入口地区	345人(要援護者18名)	かしわの館	野牛字釜ノ平53-2	317人	木造平屋635.15㎡	21m	×	○	○	県道6号(主要地方道むつ尻屋崎線)	乗用車、徒歩	徒歩10分	旧入口小学校グラウンド	約0.5km(徒歩5分)	100m×100m	堅固(グラウンド)	野牛漁港県管理(水深m)	無	県道		
12	古野牛川地区	289人(要援護者3名)	しおさいの館	野牛字釜ノ平5-9	282人	木造平屋564.34㎡	25m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩15分	旧入口小学校グラウンド	約1km(徒歩10分)	100m×100m	堅固(グラウンド)	野牛漁港県管理(水深m)	無	村道	集落が海岸沿いにあるため、高台(集会所)へ避難することとなる。	9月8日 ①14:00~14:40
13	野牛地区	113人(要援護者2名)	野牛部落集会所	野牛字水上3	114人	木造平屋228.53㎡	10m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧野牛小学校グラウンド	約0.1km(徒歩3分)	70m×50m	堅固(グラウンド)	無	無	村道		
14	巖部地区	65人(要援護者2名)	巖部部落集会所	岩屋字田畑11-3	105人	木造平屋211.14㎡	10m	×	○	○	村道(幅員6m)	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧岩屋小学校グラウンド	約1.5km(徒歩15分)	170m×160m	堅固(グラウンド)	無	無	村道		
15	岩屋地区	274人(要援護者6名)	岩屋漁協漁村センター	岩屋字往来173	196人	鉄筋コンクリート平屋392.71㎡	4m	×	○	○	県道6号(主要地方道むつ尻屋崎線)	乗用車、徒歩	徒歩10分	旧岩屋小学校グラウンド	約1km(徒歩10分)	170m×160m	堅固(グラウンド)	岩屋漁港村管理(水深m)	全世界が危険	県道	集落が海岸沿いにあるため、高台(旧岩屋小学校)へ避難することとなる。バイパス(県道)は整備中。	9月8日 ②14:50~15:30

町村名 東通村

原発避難PTの現地調査項目（避難所及び近隣の状況）

No.	収容地区名		施設名	所在地	収容人員	施設の構造、面積	推定標高（海拔）	非常用電源の有無	給水・炊飯施設の有無		収容地区からの避難方法等			近隣のヘリポート候補地			近隣の漁港・港湾施設	近隣のがけ崩れ等危険箇所	避難所から他の集落への移動経路	特記事項	調査日時	
	地区名	地区人口							給水	炊飯	避難路	方法	所要時間	場所	避難所からの距離	地積						地盤（地目等）
16	尻屋地区	459人（要援護者1名）	東通村北地区基幹集落センター	尻屋字山根61-2	424人	鉄筋コンクリート平屋848.84㎡	30m	×	○	○	県道6号（主要地方道むつ尻屋崎線）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧尻屋小学校グラウンド	約1km（徒歩10分）	70m×50m	堅固（グラウンド）	尻屋漁港県管理（水深m）	県道6号（主要地方道むつ尻屋崎線）	県道（通行止めの場合付加）		
17	尻労地区	459名（要援護者9名）	尻労漁村センター	尻労字小倉22	221人	鉄筋コンクリート平屋442.57㎡	30m	×	○	○	県道6号（主要地方道むつ尻屋崎線）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧尻労小学校グラウンド	約1km（徒歩10分）	100m×80m	堅固（グラウンド）	尻労漁港村管理（水深m）	県道尻労農部線172号	県道（通行止めの場合付加）		
18	猿ヶ森地区	64人（要援護者0名）	猿ヶ森農林研修所	猿ヶ森字村中15	116人	木造平屋233.5㎡	30m	×	○	○	県道尻労小田野沢線（幅員7m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧猿ヶ森小学校グラウンド	約0.5km（徒歩5分）	70m×50m	堅固（グラウンド）	無	無	村道		
19	田代地区	69人（要援護者3名）	田代地区多目的集会施設	砂子又字大川目	109人	木造平屋219.4㎡	20m	×	○	○	村道（幅員6m）	乗用車、徒歩	徒歩15分	無	-	-	-	無	無	村道		
20	砂子又地区	364人（要援護者7名）	ふれあい館	砂子又字川原5	249人	木造平屋499.8㎡	49m	×	○	○	村道（幅員6m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧砂子又小学校グラウンド	約0.5km（徒歩5分）	80m×80m	堅固（グラウンド）	無	無	村道		
21	上田屋地区	175人（要援護者5名）	能舞の館たや	田屋字家ノ上45	311人	木造平屋622.73㎡	34m	×	○	○	国道338号（幅員7m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧田屋小中学校グラウンド	約0.5km（徒歩5分）	50m×100m	堅固（グラウンド）	無	無	国道338号（通行止めの場合付加）		
22	下田屋地区	52人（要援護者1名）	下田屋集会所	田屋字トサミ沢44-1	33人	木造平屋67.9㎡	13m	×	○	○	国道338号（幅員7m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧田屋小中学校グラウンド	約1.5km（徒歩20分）	50m×100m	堅固（グラウンド）	無	無	国道338号（むつ市と隣接集落）		
23	豊栄地区	27人（要援護者1名）	豊栄集会所	田屋字館古横道221	35人	木造平屋71.21㎡	33m	×	○	○	村道（幅員5m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧石上小中学校グラウンド	約1km（徒歩15分）	90m×90m	堅固（グラウンド）	無	無	村道（むつ市と隣接集落）		
24	石蔵平地区	56人（要援護者2名）	石蔵平集会所	田屋字館古横道112	48人	木造平屋96.05㎡	30m	×	○	○	村道（幅員6m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧石上小中学校グラウンド	約1km（徒歩15分）	90m×90m	堅固（グラウンド）	無	無	村道（むつ市と隣接集落）		
25	一里小屋地区	35人（要援護者1名）	一里小屋婦人ホーム	田屋字館古横道32-8	37人	木造平屋74.52㎡	27m	×	○	○	村道（幅員5m）	乗用車、徒歩	徒歩5分	旧石上小中学校グラウンド	約1.5km（徒歩15分）	90m×90m	堅固（グラウンド）	無	無	村道（むつ市と隣接集落）		
26	小田野沢地区	967人（要援護者13名）	小田野沢地区学習等供用施設	小田野沢字北向37-2	173人	鉄筋コンクリート平屋346㎡	5m	×	○	○	村道（幅員6m）	乗用車、徒歩	徒歩10分	旧小田野沢小中学校グラウンド	約1km（徒歩15分）	110m×100m	堅固（グラウンド）	小田野沢漁港、村管理（水深m）	無	国道338号（通行止めの場合付加）	東通原発東京電力1号機建設予定地	
27	老部地区	916人（要援護者13名）	東通村南地区基幹集落センター	白糠字前田44-55	271人	鉄筋コンクリート平屋542.16㎡	13m	×	○	○	国道338号（幅員6m）、村道（幅員5m）	乗用車、徒歩	徒歩10分	旧老部小学校グラウンド	約0.5km（徒歩5分）	70m×70m	堅固（グラウンド）	無	無	国道338号（通行止めの場合付加）	東通原発東北電力1号機	
28	白糠地区	1332人（要援護者22名）	白糠地区多目的集会施設（いさりび館）	白糠字向流109-2	593人	鉄筋コンクリート2階建1187㎡	3m	×	○	○	国道338号（幅員6m）、村道（幅員4m）	乗用車、徒歩	徒歩15分	旧南部中学校グラウンド	約1km（徒歩15分）	90m×80m	堅固（グラウンド）	白糠漁港県管理（水深m）	国道338号	国道338号	避難所が海岸沿いにあるため、高台へ避難することとなる。	9月8日 ③16:10～16:50
29	砂子又地区	7287人（要援護者148名）	東通村体育館	砂子又字沢内5-34	2442人	PHC4.884㎡	40m	×	○	○	国道338号、県道、村道	乗用車、バス、徒歩	村内は体育館まで30分以内で移動でき	東通オフサイトセンター	隣接	60m×30m	堅固（舗装）	無	無	国道338号、県道、村道		